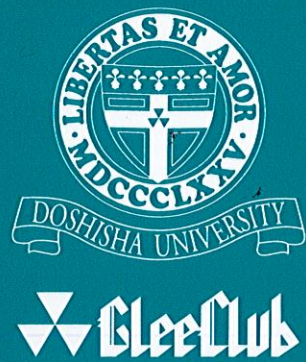


Doshisha Glee Club  
The 92nd  
Annual Concert



1996.12.17(火)

第92回 同志社グリークラブ定期演奏会

於：ザ・シンフォニーホール

## Doshisha College Song

One purpose Doshisha thy name  
Doth signify one lofty aim  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land.  
Dear Alma Mater sons of thine  
Shall be as branches to the vine.  
Tho' through the world we wander far and wide  
Still in our hearts thy precepts shall abide

Still broader than our land of birth  
We've learned the oneness of our Earth  
Still higher than soft love we find  
The love and service of mankind  
Dear Alma Mater sons of thine  
Would strive to live the life divine  
That we may with increasing years have stood  
For God, for Doshisha and Brotherhood.



## 第 92 回

# 同志社グリークラブ定期演奏会

1996年12月17日(火) ザ・シンフォニーホール



## 御 挨拶

本日はお忙しい中、同志社グリークラブ第92回定期演奏会にお越し下さりまして、誠にありがとうございます。

我が団は発足して以来、「聴衆と一体となった音楽」を活動の目的として、日々精進してまいりました。本日の演奏会をお聴きの皆様に、我々の情熱を感じとって頂けたら、これにまさる喜びはございません。

同志社グリークラブも本年創部92周年を迎えました、輝かしい伝統をもつ男声合唱団であります。グリークラブは献身的な諸先輩方の努力によって築きあげられてまいりました。この素晴らしい伝統を受け継ぎ、21世紀に向けさらなる発展を期して、今後も一層の努力を重ね心に響く音楽づくりに励んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、今宵の演奏会に多大な御力添えを下さいました諸先生、諸先輩方、並びに関係各位の方々に心より御礼申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

同志社グリークラブ幹事長 安池尚志

同志社総長 松山 義則



本日同志社グリークラブ定期演奏会が、音楽を愛する多くの方々のご出席を得て開催されますことを心からうれしく存じます。

同志社は1875年新島襄が山本覚馬とJ.デイヴィスの助けを受けて祈りのうちに創立された、キリスト教主義教育を基本とする歴史と伝統をもつ学園であります。同志社創立までには、幾重もの困難が先生の前にたちはだかりましたが、深い信仰とあふれる情熱にささえられた先生は、苦勞のすえ、それらの障害をのりこえられたのであります。わが国に一つのキリスト教主義大学を創設するという先生の願いは多くの人びとによって受け継がれ、100年を超える歳月にわたって、自治、自由、良心に生きる若き人びとの集うところとなりました。同志社グリークラブも本年創立92周年を迎えました輝かしい伝統をもつ学生合唱団であります。グリークラブは、献身的な諸先輩の努力によって築きあげられました。団員の諸君はこのすばらしい伝統を受け継ぎ、21世紀にむけさらなる発展を期して日々研鑽を積み、皆さまのあたたかいご支援をいただいておりますことは大きなほこりと存じます。

なお、同志社グリークラブは今年6月同志社栄光館にてエール大学グリークラブとの交歓演奏会を行い、輝かしい成果をあげました。これからもこの国際交流を生かして、国内外で一層活躍されるものと確信しております。

今宵は、団員の心を込めた演奏に耳を傾けていただき、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

同志社グリークラブ顧問 澁谷 昭彦



去る11月16日(土)同志社チャペルで行なわれた、戦時下に中途退学を余儀なくされた朝鮮・台湾出身元留学生の51年ぶりの卒業式は、画期的な出来事であった。大学にとっては、戦時中の反省とお詫びの意をこめた特別の卒業式であったが、グリークラブにとっても、また、別の意味において意義深いものとなった。

この日の卒業証書受領者の中に、グリークラブOB合唱団であるクローバークラブが台湾に演奏旅行したときにお世話になった関係者の一人がおられた。そこで、お礼とお祝いを兼ねて、卒業式の席上でクローバークラブに歌わせてもらえないかとの話が出て、OBの世話役の方から、この件について大学当局に打診してほしいと頼まれた。

特別の卒業式とはいえ、大学の公式の行事でOBが歌うのはむずかしいのではないかと思いつつ、担当の大学学事課に問い合わせた。その時点では、卒業式次第もどのようになっているのか分からなかったのだが、式典の中でグリーが歌うことを知った。聞けば、当日はグリーの練習日、しかも定期演奏会を控えての特別練習ということで、全員参加は不可能。指揮者を含めて17名が参加するという。これは、学校側が考えているメンバー数よりかなり少ないとのことであった。

「OBが歌いたいといっていますが……」と切り出したところ、「どうぞ」ということで、現役と合わせて人数も大学の予定していたものにほぼ近いものとなり、はからずもOBが現役を助ける事態となった。通常は、OBのコーラスの足りないところを現役が手伝えることが多い。画期的な出来事という所以である。卒業式後、OBが現役の練習を見学したと聞いている。この卒業式は、さらに、OBと現役の交流に貢献したことになる。

多少の無理をしてでも、現役の諸君がこの卒業式に出てくれてよかったと思う。いつも同志社諸学校、校友同窓関係の依頼には極力応じるように言い続けているが、それは、対外的に如何に活躍しても、同志社内での演奏をないがしろにしては、「同志社」の合唱団とはいえないからである。

同志社グリークラブOB会理事長 松村 時男



11月16日同志社礼拝堂(今出川キャンパスの中学チャペル)にて同志社大学特別学位贈呈式が行われ幸いにもグリークラブ・クローバークラブ合同で合唱の奉仕に参加することができた。大戦中に中途退学を余儀なくされた当時朝鮮籍・台湾籍であった45名の先輩の中、当日参加し得た9名の方々に学位を贈呈する式典であった。既にお亡くなりになった方々や体力的に遠路参列する事が不可能な方々も多くおられた事と思う。式典の最中、感激の涙を流されていた先輩もおられ、如何なる心境にて参列されているのかと思ううちに、我々には、想像して余りある思いや感情が諸先輩の胸一杯に広がっていたことと推察した。

松山総長は祝辞の中で、日本が過去に犯した過ちを詫びられると同時に多くの朝鮮籍・台湾籍の友人がやむなく同志社を去られる際、京都駅で別れを惜しまれたという、悲しい思いで話をされた。50年後のこの式典は遅すぎたかもしれない。しかし感動の式典であった。

特に戦争を知らない若いグリーメンがこの式典をどのように受け止めたのであろうか? 式典後に若いグリーメンが、グリーOBとともに、この式典と一緒に歌う事ができて良かったと言ってくれたが、実にその言葉にも又感動させられた。同志社グリーには、やはり同じような血が流れていると考えるだけで心満たされた一日であった。

これらの感動を胸に抱きながら今日の定期演奏会に足を運び、グリークラブの素晴らしい演奏を期待する。

第92回定期演奏会おめでとう!!!



同志社グリークラブの皆様、第92回定期演奏会、誠にありがとうございます。関西学院グリークラブ一同、心よりお慶び申し上げます。

貴団と私共との間には、「僚友」であるとか「ライバル」であるといった言葉が霞んでしまうほどの、長きに渡る歴史と伝統に裏付けされた輝かしい「蓄積」があるように思われます。関西の、いや、日本の合唱界を長年に渡って引っ張ってきた両団の間には、ときには高き理想を求めるが故の「衝突」もあったでしょう。また、ときには乗り越えるべき壁の高き故、手に手を取り合ったこともあったでしょう。そういった「蓄積」が、是であったか否であったか、それは現在における両団の関係が、無言のうちに語っていることと思います。今後も、あらゆる衝突や協力をひとつひとつ積み重ねつつ、それらの「蓄積」から醸し出される輝きに、お互い、今後ともよりいっそう磨きをかけて参りたいものでございます。

末筆ながら今宵の演奏会のご成功と、貴団の今後のご発展をお祈り致します。

—関西学院グリークラブ—



同志社グリークラブの皆様、第92回定期演奏会の御開催、誠にありがとうございます。我々、早稲田大学グリークラブ団員一同、心よりお慶び申し上げます。

吹く風も一段と身にしむ年の瀬となりましたが、今年もまた皆様の演奏会を拝聴できますことを大変嬉しく思っております。

同志社グリーの皆様とは毎年東西四大学合唱連盟の演奏会で御一緒させていただいております。皆様の演奏を初めて耳にした時のあの衝撃は今でも忘れません。深みのある発声に圧倒的な声量、そしてそれらが折り重なって生まれる重厚なハーモニー。皆様の存在は私共にとりまして大きな励みであります。本日も皆様の芸術性溢れる音楽が開場を包み込み、素晴らしい演奏会になることでしょう。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と皆様の今後益々の御活躍、御発展を団員一同心よりお祈り申し上げます。

—早稲田大学グリークラブ—



同志社グリークラブの皆様、第92回定期演奏会の御開催、誠にありがとうございます。部員一同心よりお祝い申し上げます。

貴団のエネルギーで、情熱に溢れた演奏スタイルは、部員一同、常に見習いたいと思っております。また、東西四連で、同じステージに立てることを大変光栄に思っております。貴団の素晴らしい演奏が、日々の厳しい練習に裏うちされたものであることを思うとき、皆様ひとりひとりの並々ならぬ努力を考えずにはおられません。私共も、皆様の音楽に対する真摯な姿勢を見習い、今後も一層精進していきたいと思っております。

今宵も皆様の演奏が、客席の私共のみならず、全ての聴衆を魅了し、熱い空間を共有させることでしょう。来年の6月に東京で、皆様と技を競いあえることを楽しみにしております。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と貴団の益々の御発展を、心よりお祈り申し上げます。

—慶応義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団—



同志社グリークラブの皆様、第92回定期演奏会の御開催おめでとうございます。

皆様とは毎年全同志社メサイア演奏会で共に唱わせて頂いておりますが、私たちは共に練習する度に皆様の純粋に音楽を愛する心とよりよい音楽を創る為の惜しみない努力を目の当たりにし、音楽に対するあるべき姿を思い起こさせて頂いているような気が致します。そのような皆様方の真摯な熱い情熱に巻き込まれながら、毎回メサイア演奏会本番を迎えられますことを深く感謝しております。私共にとりましては、皆様方が混声合唱というハーモニーを私たちと共有することによって、男声合唱と違ったハーモニーの素晴らしさを知ることには貢献出来れば幸せに思います。

ところで、今年はYALE GLEE CLUBとのJoint Concertにも参加させて頂き、音楽を通しての国際交流という貴重な体験も出来ました。そして、残り一週間と迫りましたクリスマス・イブを共に過ごせますことを心から楽しみにしております。

最後になりましたが、本日の定期演奏会の御成功と皆様の今後益々の御発展、御活躍を心よりお祈り申し上げます。

—同志社女子大学メサイア研究会—

**DOSHISHA College Song**

作詩 : W. M. Vories  
作曲 : Carl Wilhelm

**1st STAGE**

指揮 : 坂田善弘

**Irish Folk Songs**

1. Avenging and Bright  
Words=Thomas Moore Irish Tune="Crooghan a Venee"  
Arranged by Alice Parker
2. THE LAST ROSE OF SUMMER  
Words=Thomas Moore Irish Aie= Arranged by Ozzie Westley.
3. THE PARTING GLASS  
Arranged by Alice Parker
4. To Ladies' Eyes  
Words=Thomas Moore Irish Tune="Fague a Ballagh"  
Arranged by Alice Parker
5. LONDONDERRY AIR & DANNY BOY  
Words=Frederick Arranged by Ozzie Westley.

**2nd STAGE**

作詩 : 柴野利彦  
作曲 : 遠藤雅夫  
指揮 : 本山秀毅

無伴奏男声合唱のための

**〈今でも…ローセキは魔法の杖〉**

- I. 溢れる泉は日々を巡り
- II. 道路は巨大なキャンバス
- III. 炎のように……
- IV. 爽やかなレモンの風は
- V. 深い眠りに包まれて
- VI. 明るい光に満ちた季節は惑を止め

**— INTERMISSION —****3rd STAGE**

作詩 : A. Heyduk  
作曲 : A. Dvořák  
編曲 : 福永陽一郎  
指揮 : 坂田善弘  
ピアノ : 長田育忠

**「ZIGEUNERMELODIEN」Op.55**

—ジプシーの歌—

- I. Mein Lied ertönt
- II. Ei, wie mein Triangel
- III. Rings ist der Wald
- IV. Als die alte Mutter
- V. Reingestimmt die Saiten
- VI. In dem weiten, breiten,  
luft'gen Leinenkleide
- VII. Darf des Falken Schwinge

**4th STAGE**

作詩 : 草野心平  
作曲 : 高嶋みどり  
指揮 : 北村協一  
ピアノ : 藤田 雅

男声合唱組曲

**青いメッセージ**

- I. 月蝕と花火序詩
- II. 青イ花
- III. 婆さん蛙ミミミの挨拶
- IV. 秋の夜の会話
- V. サリム自伝
- VI. ごびらっふの独白

## Irish Folk Songs

Words: Thomas Moore/Arr: Ozzie Westley, Alice Parker

指揮: 坂田善弘

## ○ アイルランド民謡 —その歴史的背景—

一般に民謡とは、その起源がわからなくなった旋律を音符で書き留められたのではなく、口から口へ口承で伝えられ、同じ種族や民族の間に歌い広められるようになったものである。そして、ある時点で採譜された上で一つの版として出版されるという経過をたどっている。こうして生まれた「民謡」は仲間の農民や牧人、労働者たち老若男女が、その環境に合わせて歌ううちに、人々はその生活や感情を歌い込むようになった。「民謡」はまた、その国の気候や風土と、そこに住む国民の性格から強い影響を受けて生まれ育った。イタリア、ロシア、ラテン系の民謡には、それらの要素が明確に現れている。イギリス諸島で生まれた民謡にもそれがいえる。イギリス諸島の民謡と言っても、地域によってその発生や形態も著しく異なっている。イギリス諸島はイングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、およびそれぞれ地域に属する島から成り立っている。中でもアイルランドは民謡の宝庫である。アイルランドはイギリスの支配下だった頃特に耐え難かったこととして宗教と言語—カトリックとゲール語—に対する抑圧が挙げられる。英語を強制されるようになって、本来ゲール語で歌われていた民謡も、しだいに英語でつくられるようになった。しかし、それらの詩の文体はかつてのゲール語のものにくらべて著しく劣っていた。ゲール語に備っていた詩の想像力や適当な用語など、生活感情にぴったりしたものが、英語では表現し得なかったからだ。こうしたなかで、1800年頃から、独特の愛国歌、抵抗の歌が生み、変化に富んだ情感の豊かな調べはイギリス諸島随一である。アイルランドの民謡はその旋律同様形式においてもきわめて洗練されている。大部分のアイルランドの旋律は、全部で16小節という枠の上に築かれており、その中がさらに4部に区分されている。

今宵演奏される“The Last Rose of Summer” “Avenging and Bright” “To Ladies, Eyes” の作詩者 Thomas Moore (1779~1852) は19世紀に10巻からなる、Irish Melodies、を出版した詩人音楽家。“The Last Rose of Summer” はもともと「ハイド城」と呼ばれる Irish Air で、1813年に Moore が作詩して「夏の名残のぼら」として出版。ドイツの作曲家 Friedrich Uow Flotow がその歌劇「マルタ」にこの旋律を主導動機のように用い、マリアにも借用して、マルタと名乗るハリエットに歌わせてから、この曲は広く知られる様になった。また、ベートーベンも民謡編曲に「20のアイルランド歌曲」に、メンデルスゾーンは、「夏の名残のぼらによるピアノ幻想曲ホ長調」を作曲している。わが国では明治、大正時代に歌われた<唱歌>には、スコットランドやアイルランドの民謡を取り入れた曲がよく見られる。この「夏の名残のぼら」は明治17(1884)年発行の「小学校唱歌集」に「庭の千種」として採用されている。

The Parting Glass” この曲は2/2拍子の中に5/4拍子と6/4拍子が織り混ぜられており、独特な拍子となっている。“Londonderry Air” & “Danny Boy”

アイルランドのデリー地方に伝わる民謡曲豪州人の作曲家でアメリカで活躍したイギリスの民謡収集で有名な Percy Grainger (1882~1961) が編曲紹介して世界的に有名になった。ロンドンデリーの歌は、アイルランド北部、現在イギリスに属している北アイルランド地区の一州ロンドンデリーに古くから伝わるものである。ロンドンデリーは350年ほど前までは単にデリーと言っていたがこの地にイングランド勢力を伸ばすようになって、1618年時の王ジェームス一世がロンドンの名を冠せて呼ばせるようにした。この曲はむしろ“Danny Boy”で知られている Irish ballad の名品である。けれど、節は同じでも、この二つの歌は詩が違う。“Londonderry Air”の方は、家を出た息子を思う母親の情が歌われ一方、“Danny Boy”は、自分が死んだ時のことを友人に語る詩になっている。今回は特別に1番を“Londerry Air”2番を“Danny Boy”で演奏する。

恐らくアイルランドの民謡だけでステージを構成することは、非常に珍しいことである。しかし「螢の光」などのイギリス系民謡は昔から日本で親まれていた。その理由の一つとし、イギリス系民謡は半音進行が少なく五音階で出来ており日本民謡の基本的な音階と共通するものがあつたからである。

今宵演奏する曲から、なにかしら哀愁、わびしさあるいは、力強さといったものが皆様に伝われば幸いです。リラックスしてお聴き下さい。

## THE LAST ROSE OF SUMMER

'Tis the last rose of summer,  
Left blooming alone,  
All her lovely companions, Are faded and gone.  
No flower of her kindred, No rosebud is nigh  
To reflect back her blushes,  
Or give sigh for sigh.

So soon may I follow,  
When friendships decay,  
And from love's shining circle The gems drop a way ;  
When true hearts lie withered  
And fond ones have flown,  
Oh, who would in habit  
This bleak world alone.

## To Ladies' Eyes

To ladies' eyes a round, boy, we can't refuse,  
Though bright eyes so abound, boy, 'Tis hard to choose.  
For thick as stars that lighten Yon airy bow'rs,  
The countless eyes that brighten This earth of ours.  
But fill the cup! where'er, boy, Our choice may fall,  
We're sure to find love there, boy, So drink them all!  
Some looks there are so holy, They seem but giv'n  
As shining beacons solely, To light to heav'n ;  
While some, oh! ne'er believe then, With tempting ray,  
Would lead us, (God forgive them!) The other way.  
In some, as in a mirror, Love seems portray'd,  
But shun the flatt'ring error, 'Tis but a shade,  
Himself has fix'd his dwelling In eyes we know,  
And lips but this is telling So here they go!  
But fill the cup! where'er, boy, Our choice may fall,  
Were sure to find love there, boy, So drink them all,  
So drink them all!

## The Parting Glass

O, all the money e'er I had, I spent it in good company.  
And all the harm I've ever done,  
Alas! it was to none but me.  
And all I've done for want of wit  
To mem'ry now I can't recall ;  
So fill to me the parting glass,  
Goodnight and joy be with you all ;  
O, all the comrades e'er I had,  
They're sorry for my going away.  
And all the sweet-hearts ee'r  
I had, they'd wish me one more day to stay.

But since ti falls unto my lot, I gently rise and softly call.  
That I should go, and you should not ;  
Goodnight and joy be with you all.  
If I had money enough to spend,  
And leisure time to sit awhile,  
There is a fair maid in this town.  
That sorely has my heart beguil'd.  
Her rosy cheeks and ruby lips,  
I own she has my heart in thrall!  
Then fill to me the parting glass,  
Good night, and joy be with you all ;  
Good night, and joy be with you all.

## Avenging and Bright

Avenging and bright fall the swift sword of Erin  
On him who the brave sons of Usna betrayed!  
For every fond eye which he waken'd a tear in,  
A drop from his heart wounds shall weep o'er her blade.  
We swear to revenge them!  
No joy shall be tasted, the harp shall be silent,  
the maiden unwed.  
Our halls shall be mute, and our fields shall lie wasted,  
Till vengeance is wreak'd on the murderer's head.  
Yes, monarch! Tho' sweet are our home recollections,  
Tho' sweet are the tears that from tenderness fall ;  
Tho' sweet are our friendships, our hopes and affections,  
Revenge on a tyrant is sweetest of all!

## LONDONDERRY AIR &amp; DANNY BOY

Would God I were the tender apple blossom  
That floats and falls from off the twisted bough.  
To lie and faint within your silken bosom,  
Within your silken bosom As that does now!  
Or would I were a little burnished apple  
For you to pluck me gliding by so cold.  
While sun and shade your robe of lawn will dapple.  
Your robe of lawn, And your hair's spun gold.

Oh, Danny Boy the pipes are calling From glen to glen, and  
down the mountain side,  
The summer's gone, and all the roses falling,  
It's you must go, and I must bide.  
But come ye back when summer's in the meadow,  
Or when the valley's hushed and white with snow.  
It's I'll be here in sunshine or in shadow,  
Oh, Danny Boy, oh Danny Boy, I love you so!

## 無伴奏男声合唱のための 〈今でも…ローセキは魔法の杖〉

作詩：柴野利彦 / 作曲：遠藤雅夫  
指揮：本山秀毅

この作品は、明治大学グリークラブの委嘱作品であり、1978年に、先に関西六連の合同ステージを指揮した外山浩爾先生の指揮のもと初演された。それから20年近く経ってしまったが、その間にも全国のような男声合唱団で歌われ続け、混声合唱への編曲もなされている。楽譜が出版されていないにもかかわらず、こうまでこの曲が歌われ続けてきた、またこの曲に魅了されてきたものはなんだろうか。

日が暮れるまで外で遊び続けていたあの幼い頃からもう十年以上にもなる。おそらくローセキと聞いても、すぐにはその正体がかつめなかつたのではないだろうか。ローセキとは蠟石のことで、蠟状の感触のある岩石や鉱物の総称のことである。道路をキャンパスとするならば、絵の具にあたるものである。子供たちはそのローセキを手にとるや否やあちらこちらの道路に別れ、自分たちの世界を夢いっぱい描く。その世界には現実と夢幻の垣根はなく、ただその世界を創った、一人の子供がもつ法則にのみ支配されている。ローセキ遊びに限らず、子供たちは遊びの中で王様であり女王さまになる。小さい頃は確かに知識もなく活動範囲も狭かったが、その遊びの中では無限の世界が広がり、子供はその中の主人公である。空を飛ぶこともできるし、銀河鉄道に乗って天の河を渡することもできる。しかしながら、これら空想世界はいつじか、フッと消えてしまう。ある時、あれだけ夢中になっていた遊びが急につまらなくなり、やめてしまう。そんな経験を誰もが持っているであろう。この境目が子供から大人への分け目であり、成長過程なのである。この作品はその微妙な惑いを、現在から振り返ったものである。

今、幼き思い出を振り返れば、誰でも懐かしさとともに恥しい想いとらわれるだろう。けれどもその想いは子供から大人になる為に全ての人を経験するもので、あたりまえのことである。ままごとや缶けりをしてきた子供は、その世界の王様である。その幼き思い出をしっかりと見つめ、子供は大人へ、大人は年長者へ、もっと、もっと成長していくのである。

- ////////////////////
- I きらびやかな情景が8分の6拍子の美しいメロディーによって流れ、私たちがメルヘンチックな不思議な世界へ誘い込む。
- II その世界では、過去の自分が無限の存在である空間、そこで時間をいっぱい使って遊んでいる。遊びの種類も多種多様である。  
夕暮れ時には満足感溢れる疲労がやってくるのだが、遊びはまだ続く。この永遠かと思われる遊びにも終わりがあるのを知るのが、無限の世界は閉ざされない。
- III 大人の厳しい世界にいつの間にか粉れ込んでしまう自分。周囲がどんどん変わっていき、実は自分もかわったのだが、取り残される孤独感にさいなまれる。不協和音の最後の部分は何とも物悲しい。
- IV 子供の頃の素朴な疑問が軽やかに語りかけられる。これが玉手箱となってあらわれるのだが、これを開けてしまってもう昔には戻れない現在の自分、この自分から大人になる前の自分に対して、メッセージを爽やかに送ってやりたいのである。
- V 素晴らしい理想郷とも呼べる場所で邪魔するものも無く静かに眠っている。しかも孤独ではなく溢れんばかりの愛をいっばいに受けながら、まわりには美しく明るい世界がひろがっている。この眠りはその世界に飛び立つためのまさに生の眠りなのである。
- VI Iと同じメロディーによりきらびやかな情景が再び描かれる。この情景は過去から現在、そして未来へと永遠に続いている。子供から成長して大人になった自分だが、ローセキを思い浮かべることにより現在も過去と同じきらびやかな世界に生きていることを認識するのである。

### I. 溢れる泉は日々を巡り

優しい思い出に包まれた遠い日  
葎笛を吹きながら トンボが空を横切る  
溢れる泉は 日々を巡り  
飛び跳ねる自由を 欲しいまま  
無邪気に書き込まれる余白は 鮮か

毎日が夢中で駆け抜け  
季節は翼を大きく 拡げ  
宙返りしながら クスッと笑う

陽はキラキラ いたずらっぽく光り  
風は走ったり 立ち止ったり  
幼い頃は 世界の中心  
恐れるものは何もない  
恐れるものは何もない

時には叱られて 泣きべそをかく  
大粒の涙に 星が輝く頃  
天国は もっとも近い

### II. 道路は巨大なキャンパス

道路は巨大なキャンパス  
ローセキで引いた一本の線は  
どこまでもどこまでも伸び続け  
地球の裏側までつながって行く

道路は巨大なキャンパス  
ローセキで描いた汽車は煙を吐き  
いつまでもいつまでも走り続け  
銀河鉄道までつながって行く

隠れんぼの鬼が泣く  
(もう、いいかいー)  
缶けりの缶が消える  
竹トンボが空を飛ぶ  
馬飛びの馬が潰れる

道路は巨大なキャンパス  
地球の裏側までつながって行く  
紫色のモヤが ぼんやり漂う頃  
夕暮れの匂が どこからともなく流れ  
心地良い疲労がやってくる

隠れんぼの鬼が泣く  
(もう、いいかいー)  
缶けりの缶が消える

果てることのないゲームにも  
終わりがあつたのを知つたのは  
逆立ちして歩いた せいだろうか

道路は巨大なキャンパス

### III. 炎のように……

いつの間にか  
不思議な間に包まれた遠い日  
小さな胸は秘密でいっぱい  
小さな頭は謎でいっぱい  
太陽は時々にかか笑ってこない

地面に描いた絵も抜け出してこない  
地球の裏側まで続いていた道も  
どこかでぶつんと切れてしまった

いろいろなものが変わってしまう  
ふと気が付く間もないほどに素速く  
炎のように目まぐるしく  
雷のように激しく  
周囲は姿を変え  
変わる 変わる 変わる

隠れる場所がない  
もうお母さんは他人  
誰もかばってこない

見たこともない 感じたこともない  
裏切りの高笑いも聞える

いつの間にか  
逆立ちして歩いてた 遠い日  
小さな胸は傷つき始め  
小さな頭は悩み始める

いつの間にか……

### IV. 爽やかなレモンの風は

「隣の娘さん もうそろそろお年頃」  
年頃になると  
どうして結婚するのか  
ラ・ラ・ラ・ラ……

人生の謎は玉手箱  
ひとつ解け ふたつ解け  
解ける度に 年を取る

「嫁いだ娘さん もうそろそろ赤ちゃんが」  
結婚すると  
どうして赤ちゃん できるのかな？  
ラ・ラ・ラ・ラ……

人生の謎は玉手箱  
ひとつ解け ふたつ解け  
解ける度に 年を取る

どんなことをしたって  
時間の逆戻りなどできやしない

ときめく心は海鳴りのように  
波間にたどられ ゆれ続ける

傷つくことを恐れているは  
飛べないヒヨコになってしまう

心の扉に鍵をかける前に  
爽やかなレモンの風を送り込んでやろうかな

### V. 深い眠りに包まれて

深い眠りに包まれた遠い日  
誰にも邪魔されない  
誰も来たことのない  
誰も知らない場所で  
ぐっすり眠っている

ほのかな光に包まれた遠い日  
誰にも脅されない  
誰も乱すことのない  
誰も触れない場所で  
ひっそり眠っている

晴れやかな夏の日差し  
まばゆききらめき 海に突き刺す  
透明なガラスのケースに収められ  
どンドン沈んで行く

愛だけを 氷が溶けるほどに熱く  
しっかり胸に抱いて

澄んだ音色に包まれた遠い日  
時間がかすかに流れ  
時間がふと波打ち  
時間が止まる場所で  
ふわり眠っている

うらかな音のざわめき  
氷が砕けて世界が燃える  
透き通るガラスはほのかな光になって  
夢を求めて浮き上がる

愛だけを 氷が溶けるほどに熱く  
しっかり胸に抱いて

きつと眩い光が差す  
きつと春が ささやく

蛹は深い沈黙を破り  
ある日突然  
羽を上げた世界が開けるだろう……  
きつと きつと……

### VI. 明るい光に満ちた季節は惑を止め

やさしい思い出に包まれた遠い日  
口笛を吹きながら 小鳥が空を横切る  
きらめく泉は踊り始め  
静かな日溜りを欲しいまま  
何も書き込まれていない余白は眩しい

稲光りのムチを振る冬將軍は去り  
明るい光に満ちた季節は  
惑を止める

誰でも持っている透明なローセキ  
そうっと思ひ浮かべるだけで  
無邪気な日々が今日と重なる  
今でもローセキは魔法の杖

## 「ZIGEUNERMELODIEN」Op.55

## —ジプシーの歌—

作詩：A.Heyduk / 作曲：A.Dvořák / 編曲：福永陽一郎

指揮：坂田善弘 / ピアノ：長田育忠

ドヴォルジャークは、1841年9月にプラハ北方のモルダウ河畔の小村で、肉屋を兼業する居酒屋の息子として生まれた。当時、ボヘミアはハプスブルク帝国の圧政下から脱する気配を見せていたが、そのナショナリズムは音楽の世界にも高まりを見せ、スメタナ、ドヴォルジャーク、ヤナーチェクなどの傑出した国民楽派の作曲家を生み出す土壌を造り上げていた。

彼は青年期から音楽的才能に恵まれていたが、けっして生まれつきの天才ではなかった。しかし、確かな教育を身につけた才気あふれる青年は、人より早く音楽技術を獲得し、作曲も非常に早かった。彼はチェコの音楽が開花した1860年代から多くの影響を受けたが、作曲家として知られるようになったのはきわめて遅く、驚くほど晩熟だった。人々は、彼がオルガン学校を卒業してから12年余りもの間、作曲家であることを知らなかった。作曲家として最初の成功を収めたのも、それから2年後のことである。しかし当人は、こうした月日の間、ずっと作曲を続け、いやになるほど丁寧な筆跡で数百枚の楽譜を埋め尽くしていた。なかには、極端に長い交響曲やオペラもあったが、彼はその多くを燃やしてしまった。ドヴォルジャークはけっして、俗に言われるインテリ音楽家ではなかったが、真面目一本やりで自分に対して厳しい人間だった。また、彼は次々と作品を書いてはいたが、その数ゆえか、自分の気に入らない曲があると簡単に破棄してしまった。

ドヴォルジャークは、上記にあるように晩成型の芸術家だった。世界の楽壇の目にとまるようになったのも40才前後であった。その脂がのった39才の時にこの「ジプシーの歌」を作曲した。この曲は1880年の1月中旬に僅か5日間で書き上げられたという。完成した作品はドイツのテノール歌手G.ヴァルターに献呈された。原詩は、チェコの詩人A.ヘイドック（1835～1923）によりチェコ語で書かれているが、作詩者自身の手でドイツ語訳させたものをテキストとしている。

ドヴォルジャークには総数が百数十に及ぶ歌曲があり、この「ジプシーの歌」の他にも「恋愛歌曲集」や「聖書歌曲集」等、比較的有名なものもある。しかし、その旋律の豊かさにおいて「ジプシーの歌」は傑出している。駆けぬけてゆくような王の謳歌、そして好戦性。時おり垣間見せる感傷的メロディー。自由にして流浪の民ジプシーの生き様を余す所なく歌に織り込んである。また、特筆すべきは伴奏部の充実であろう。ジプシー音楽には欠かせぬツィムパロンやトライアングルの音を暗示し、随所に舞曲風のリズムを見せる。印象的なアルペジオやきらめくような短前打音。歌唱部のみならず、伴奏までが歌うべく強烈に自己主張してみせる。

第4曲の「わが母の教えたまいし歌」は、人をひきつけずにはおかない情緒と哀感にあふれ、歌曲集の中でも、最も広く親しまれている。



## I. Mein lied ertönt

Mein lied ertönt  
Ein Liebespsalm,  
Beginnt der Tag zu sinken;  
Und wenn das Moos, Der welke Halm  
Tauperlen heimlich trinken.

## 〈わが歌ひびけ〉

俺の歌が響く、  
愛の賛歌が  
日が沈みかけ、  
そして苔が、しおれた茎が、  
真珠の様な露をひそかに飲む時

## V. Reingestimmt die Saiten

Reingestimmt die Saiten,  
Bursche, tanz' im Kreisel!  
Heute froh,  
Und morgen?  
Trüb nach alter Weise!

## 〈弦を整えよ！〉

弦を整えよ！  
若者よ、輪になって踊れ！  
今日のうちは楽しく、  
そして明日は？  
古い調べに泣くもよい！

Mein Lied ertönt  
Voll Wanderlust  
In grünen Waldeshallen,  
Und auf der Pussta weitem Plan  
Lass' frohen Sang ich schallen.

俺の歌が響く、  
流浪の喜びに満ちて、  
緑の森の広間で、  
そしてプスタの大平原で、  
俺は楽しい歌を響かせる。

Nächster tag' am Nile,  
An der Väter Tische  
Reingestimmt die Saiten,  
In den Tanz dich mische!  
Reingestimmt die Saiten!  
Bursche, tanz' im Kreisel!

いずれナイルのほとりで、  
御先祖様の仲間入り。  
弦を整えよ、  
踊りに加われ！  
弦を整えよ！  
若者よ、輪になって踊れ！

Mein Lied ertönt  
Voll Liebe auch,  
Wenn Haide stürme toben;  
Wenn sich zum letzten Lebenshauch  
Des Bruders Brust gehoben.

俺の歌が響く、  
愛にも満ちて、  
荒野に嵐が狂う時、  
末期の息に 兄弟の胸が  
末期の息をつかんと膨らむ時、

VI. In dem weiten, breiten,  
luft' gen Leinenkleide

In dem weiten, breiten,  
Luft' gen Leinenkleide freier der  
Zigeuner als in Gold und Seide!

## 〈軽い着物〉

幅広くゆったりして、  
軽やかな麻の服を着れば  
金や絹をまとうよりジプシーは自由だ！

## II. Ei, wie mein Triangel

Ei! Ei, wie mein Triangel  
Wunder herrlich läutet!  
Leicht bei solchen Klängen  
In den Tod man schreitet!

## 〈きけよトライアングル〉

どうだい、俺のトライアングルは  
何とすばらしく鳴ることよ！  
こんな響きを聞いたら  
人間気楽に死んでゆけるさ！

Jaj! der gold'ne Dolman  
Schnürt die Brust so enge,  
Hemmt des freien Liedes  
Wanderfrohe Klänge;

そうよ、金の紺ジャケツなど  
窮屈に胸をしめつけ、  
旅の喜びを自由な歌に託して  
響かせるには邪魔になる

In den Tod man schreitet  
Beim Triangel schallen!  
Lieder, Reigen, Liebe,  
Lebewohl dem Allen!

気楽に死んでゆける、  
トライアングルが響けば！  
歌よ、踊りよ、恋よ、  
みんなみんなお別れだ！

Und wer Freude findet an  
Der Lieder Schallen,  
Lässt das Gold, das Schnöde  
In die Hölle fallen!

そして歌の響きに  
喜びを見出すのなら  
黄金なんてつまらぬものは  
地獄に叩き落とせ！

## III. Rings ist der Wald

Rings ist der Wald so stumm und still,  
Das Herz schlägt mir so bange,  
Der schwarze Rauch sinkt tiefer stets  
Und trocknet meine Wange.

## 〈森はしずかに〉

まわりの森は静まりかえり、  
俺の心は不安に高鳴る。  
黒い煙が舞い下り続け、  
俺の頬を乾かしちまう。

## VII. Darf des Falken Schwinge

Darf des Falken Schwinge  
Tatrahöh' n umrauschen,  
Wird das Felsenest  
Er mit dem Käfig tauschen?

## 〈鷹は自由に〉

鷹の翼はクトラの峰を翹って  
風に鳴るのがよいのだ。  
鷹の岩間の巣を  
鳥籠と代えたりしようか？

Ei, meine Tränen trocknen nicht,  
Musst andre Wangen suchen!  
Wer nur den Schmerz besingen kann,  
Wird nicht dem Tode fluchen.

ああ、俺の涙は乾きはしない。  
もう一人の頬を求めているのさ。  
悩みを歌にできるなら  
死を呪ったりはしないものだ

Kann das wilde Fohlen  
Jagen durch die Haide,  
Wird's am Zaum  
Und Zügel finden keine Freude?

野の若駒は荒野を自由に  
疾駆できるのだ。  
勒や手綱に  
喜びを見い出せようか？

## IV. Als die alte Mutter

Als die alte Mutter  
Mich noch lehrte singen,  
Tränen in den Wimpern  
Gar so oft ihr hingen.

## 〈わが母の教えたまいし歌〉

かつて年老いた母が  
俺に歌を教えてくれた時、  
よく睫毛に  
涙をためていた。

Hat Natur, Zigeuner,  
Etwas dir gegeben?  
Jaj! zur Freiheit schuf sie mir  
Das ganze Leben!

ジプシーよ、自然が何か  
お前に与えたか？  
そうよ！自然は俺に  
一生涯の自由をくれたとも！

Jetzt wo ich die Kleinen  
Selber üb' im Sange,  
Riesel's in den Bart oft  
Riesel's oft von der braunen Wange!

今、俺が子供達に  
歌を教えようとする  
涙が日に焼けた頬を伝い、  
髭を濡らす。

男声合唱組曲

## 「青いメッセージ」

作詩：草野心平 作曲：高嶋みどり

指揮：北村協一

ピアノ：藤田 雅

男声合唱組曲「青いメッセージ」は、草野心平の詩のなかより六つを抜きだし、高嶋みどりの手によって作曲された。

1曲目の冒頭に、序曲の様な役割を担う3和音が連続して展開する。この和音の進行がもつ独特な響きは、その後も、様々な形に変容しながら全曲に渡りいたるところで耳にする、重要な動機である。詩自体は短いものであるが、組曲全体としてもイメージ＝「蛙」という階級の生死観を決定づける序章となる大切な導入詩である。

2曲目は、蛇に食べられていこうとするちびっこ蛙が見た死後の世界が描かれている。また「青い花」という言葉が組曲に青の色彩感をもたらすこととなっている。

3曲目はブルース調の曲で、婆さん蛙ミミの辞世の言葉がコミカルなタッチで表現されている。

4曲目はアカペラの曲である。蛙と蛙の対話という形で曲が進行する。

5曲目は、戦争を肯定してしまうことで、逆に戦争を痛烈に拒絶する曲である。ソノミ村の大虐殺に巻き込まれ、死んでも死にきれないために、コウモリに化けた蛙の詩である。交錯する変拍子と激しいddddとマシンガンの擬音語が蛙の心情と合わさり、この曲を奏でる。終曲へはアタッカで入ることになっている。

終曲は“春殖”の導入詩をはさむ曲である。生命の誕生を祝う、温もりを持ったア・カペラの響きからはじまる。終曲の詩は、2部構成となっており、始めに蛙語で、後から日本語で歌われることになる。“春殖”は、春の日にきらきらと照らされ、ぬるんだ池の水面に浮かぶ、水藻のあちらこちらから生まれる生命の誕生への祝福を、草野心平一流のオノマトペアで詠んだ詩である。生誕の祝福という、“春殖”の詩のあとを受けて哲学者ごびらっふが生命の歓びを歌う。

## 《オノマトペアの天才心平》

心平は「蛙」の詩人であると同時にオノマトペア創作の達人でもあった。例えば、

生殖 I

るるるるるるるるるるるるるるるるるる

ただ“る”の文字を二十並べただけであるが、視覚的にはあの蛙のゼラチンの紐のような卵を次々と産んでいく動作のようなものを感じさせ、音感的には、生殖による生命の弾力性のようなものを感じさせる。と同時に蛙の生殖期のもの憂い暖かな外気も想像させるものがある。心平のオノマトペアについて、長江道太郎氏は、心平のオノマトペアは「もうオノマトペアという音声学の領域からとび出た抽象言語としか言いようがない」と言っている。そして、その顕著な例が「ごびらっふの独白」ではないだろうか。何故心平のオノマトペアが優れているのであろうか。それは、心平と蛙は、客観的対象的存在から共生的協働者としても関係を確立していたからであろう。心平にとって蛙語とは通訳も何も必要としない蛙の生の声なのである。故に心平のオノマトペアは、表現の極だったものとなり、心平をしてオノマトペアの天才とする所以であろう。

オノマトペアは、通例擬声語と訳し、狭義の擬声語（擬音語・反響語ともいう）と擬態語（擬容語・象徴語ともいう）とを含めていう。本来ギリシア語源で、ギリシア語のOnomatopoliaは成語法（the making of words）の意で、その成語の仕方は、ある事物の名称その事物の（発する）音によって与えるというやり方である。即ち、言語記号において、記号する物と記号される物との間に必然的関係つまり音（声）象徴（sound symbolism）が存在する語群を意味する。この語群の中で、記号される物の発する音に似せて記号する物があれば、狭義の擬声語といい、記号される物が音を発しないにしても、その姿態を感覚的に音として写して表現する物を擬態語といっている。**【例示】**「雨がザーザー降る」の「ザーザー」は擬音語、「ノソソ歩く」のノソソは擬態語である。

## 草野 心平

一九〇三年（明治三十六）五月一二日、福島県石城郡上小川村（現、いわき市小川町）で生を受けた。だが、心平は東京に住む両親や他の兄弟姉妹とは遠く離れてひとり郷里上小川村の祖父高蔵、トメのもとで育てられた。

一九一〇年（明治四十三）祖父高蔵の死に逢う。まだ七歳の心平にとって、両親以上の愛情をそそいでくれた祖父の死は強い衝撃となったことであろう。

一九一六年（大正五）一月、兄民平が一七歳の生涯を閉じ、続いて二月、母トメも息も息をひきとる。さらに八月には姉綾子が伊豆で没した。わずか半年余りの間に三人の肉親の死、いずれも結核性であった。当時結核は亡国病とさえ言われ恐れられていたものであった。この時、感受性の強い年齢の心平に「死」と「生」が強烈に襲いかかったことであろう。

一九一九年（大正八）「彼は読書と祖暴の生活で、成績もぐんと落ちた。彼には何かしらの不満と、現状打破と、言い知れぬ飛躍の衝動で、じっとしてはおられない切羽つまった状態であった」と坂本明之氏の回想『五十五年前の心平』で物語るように、心平は県立磐城中学を十一月に退学し、忽然と郷里を去るのである。そして上京した心平は、翌年四月慶応普通部三年に編入する。この頃より、父との確執が強まり、日本脱出を強く考えるようになる。ここで心平の飛躍の衝動は現実には発揮されるのである。「思い立ったら、もう学校（慶応）へなんか行きやしない。昼間は正則英語学校で英語を勉強、夜は紀尾井町にあった善隣書院で北京語を勉強した。」（『中国、わが青春』）そのためのように九月には家を出、続いて慶応退学、脱出、逃亡は着実に実現に向かっていったのである。

一九二一年（大正十）神戸から日本郵船八幡丸で上海へ。心平は『わが青春の記』で、「そこから広東行の貨物船に乗り替え、香港経由で広東に着いたのは二月であった。私は日本を去ることになんのチュウチョもなかった。事実東京駅をたった時は、送ってくれた人は泣いたが、私は泣けなかった。」と語っている。棄郷、家からの離脱、祖国からの逃亡、心平自身は全く予期していなかったであろうが、心平の詩人としての生涯が、ここから始まったと言えるであろう。

## 《詩人心平の誕生》

草野心平が詩に強い意欲を燃やし始めたのは、中国に渡り、広東の嶺南大学（現、中山大学）に入学してからのことである。心平の作詩の直接の口火となったのは、亡き兄、民平の作品であったようである。そのことは心平が『私の中の流星群』の民平の項で、心平自身が記している。すなわち、「兄のノートが誰から私の手に移ったか確として記憶はないが、多分第二の母からだったろうと思われる。私に渡されたときバラバラと散読したきりで、改めてじっくり目を通したのは嶺南大学の寄宿舎の屋根裏部屋でだった（中略）

屋根裏部屋にはアルバイト学生だけがたむろしていたが、その薄暗い窓ぎわで読んだ民平の詩や短歌や小品文に、特にその詩に私は瞠目した。当時の私より年少だった兄の詩には理解できない変な詩があったが、その分からない作品が分かりすぎる作品よりも私には魅力があった。民平の詩作品の中の訳十篇ほどは大正三、四年頃の日本の詩界の詩作品に比べても類傾向のものではなく、言わば異端な新鮮さがある。また、ひどい早熟さだった。」と語っている。この民平の詩の刺激を受けて、心平の詩は堰を切って落としたように次々と流れだすのである。

## 《心平と蛙》

蛙はでっかい自然の讃嘆者である。  
蛙はどぶ臭いプロレタリアストである  
蛙は明朗性なアナリスト  
地べたに生きる天国である。

草野心平

これは、心平の第一詩集である《第百階級》の序詞である。この詩の中に、心平の蛙に対する考えが全て含まれている様に思われる。この「蛙」と心平の出会いであるが、農村に生まれ育った心平にとって、ものごころつく頃にはすでに遊び相手になっていた。といっていいたろう。百姓仕事を手伝う少年心平の周囲には、常に無邪気な澄んだ眼がその平和な顔がのぞいていたことであろう。今でも心平は「おれは百姓にあこがれていたんだが、とうとう百姓になれなかった」とか「百姓ってのは一人でも百姓なんだぞ」などと言ったりすることがあった。そんな百姓にとっては「蛙」はもう水田の中で一日中を一緒に過ごす仲間であったし、孤独な百姓の子供の遊び相手でもあるのである。



I 月蝕と花火序詩

蛙よ
口笛をふいて
寂しい月蝕をよべ
花火をかこんで
青い冷や酒を傾けよう

II 青い花

トテモキレイな花。
イッパイデス。
イイニホヒ。イッパイ。
オモイクラキ。
オ母サン。
ボク。
カヘリマセン。
沼ノ水口ノ。
アスコノオモダカノネモトカラ。
ボク。トンダラ。
ヘビノ眼ヒカッ。
ボクソレカラ。
忘レチャッ。
オ母サン。
サヨナラ。
大キナ青い花モエテマス。

III 婆さん蛙ミミミの挨拶

地球さま。
永いことお世話さまでした。
さやうならで御座います。
ありがたう御座いました。
さやうならで御座います。
さやうなら。

IV 秋の夜の会話

さむいね。
ああさむいね。
虫がいないね。
ああ虫がいないね。
もうすぐ土の中だね。
土の中はいやだね。
瘦せたね。
君もずぶん瘦せたね。
どこがこんなに切ないんだらうね。
腹だらうかね。
腹とつたら死ぬだらうね。
死にたかあないね。
さむいね。
ああ虫がいないね。

V サリム自伝

平和のための戦争である。
戦争をするのは平和のためである。
人民あるいは人類のためにその平和のために人民を殺さなければならない。
人を殺すのはすべて平和のためであり人を殺すためではない。
人を殺すためではないが人を殺すのである。
話はいよいよこみいってきて人を殺す遊戯も平然はじまるのである。

おれのふるさとソシミ。
ソシミでの大虐殺も平和のためだといわれている。
右腕のつけ根をノコギリで切られた男もいる。
ザクロの乳房。
マニラ麻の縄で胴腹や首や手首をつなかれ。
(すべて平和のために！)
銃口がむけられ。
dddddd dd
dddddd ddddddd ddd

おれはそのとき。
小川の流れている原っぱに逃げる苦だったが。あわてて逆に。
倒れかきになった半死人たちの下積みになり腹がやぶれた。
おれにも成仏はない。
大きなコウモリに化けてソシミの空をとんでいる。いまでも。
だれもおれに気がつかないようだが。
大きな黒いコウモリになって。

VI ごびらっふの独白

るてる びる もれとりり かいく。
ぐう であとびん むはありんく るてる。
けえる さみんだ げらげれんで。
くろおむ てやらあ ろん るるむ かみ う りりうむ。
なみかんた りんり。
なみかんたい りんり もろろふ ける げんけ しらすてる。
けるば うりりる うりりる びる るてる。
きり ろろふ ぶりりん びる けんせりあ。
じゆるうで いろあ ぼらあむ てる あんぶりりよ。
ぶう せりを てる。
りんり てる。
ぼろびいろ てる。
ぐう しありる う ぐらびら とれも てる ぐりせりや
ろとうる ける ありたぶりあ。
ぶう かんせりてる りりかんた う きんきたんげ。
ぐうら しありるだ けんた るてる とれかんた。
いい げるせいた。
でるけ ぶりむ かににん りんり。
おりちぐらん う ぐうて たんたける。
びる さりを とうけんてりを。
いい びりやん げるせえた。
ばらあら ばらあ。

日本語訳

幸福といふものはたわいなくつていいものだ。
おれはいま土のなかの籐のやうな幸福につつまれてゐる。
地上の夏の大歓喜の。
夜ひる眠らない馬力のはてに暗闇のなかの世界がくる。
みんな孤独で。みんなの孤独が通じあふたしかな存在をほのぼの意識し。
うつらうつらの日をすごすことは幸福である。
この設計は神に通ずるわれわれの。
侏羅紀の先祖がやつてくれた。
考へることをしないこと。
素直なこと。
夢をみること。
地上の動物のなかで最も永い歴史をわれわれがもつてゐるといふことは平凡ではあるが偉大である。とおれは思ふ。
悲劇とか痛憤とかそんな道程のことではない。
われわれはただたわいなく幸福をこそうれいとする。
ああ虹が。
おれの孤独に虹がみえる。
おれの簡単な脳の組織は。
言はば即ち天である。
美しい虹だ。
ばらあら ばらあ。

北村 協一

指揮者



昭和29年に関西学院大学経済学部を卒業。在学中、関西学院グリークラブの指揮者として活躍。卒業後、東京コリアーズ入団。昭和36年藤原歌劇団入団、昭和38年同団によるブッチェニ「外套」を指揮し好評を博す。昭和40年に同団を退団。昭和43年二期会合唱団常任指揮者、昭和45年二期会指揮者となる。昭和48年に第6回文化庁芸術家海外派遣生として渡欧。平成元年、関西学院グリークラブヨーロッパ演奏旅行に同行、ウィーン楽友協会大ホールに於いてチェコ国立室内管弦楽団と共演し、L.ケルビーニ作曲の「Requiem in d-moll」を指揮。同じく、平成4年に同関西学院グリークラブアメリカ演奏旅行に同行、ボストンシンフォニーホールに於いて、A.コーブランド作曲の「Old American Song」を指揮する。また、1990年より故福永陽一郎氏の後を継ぎ、藤沢市民オペラに於いてグノーの「ファウスト」を指揮し、見事、その代役を果たし、以後、同オペラの指揮を努め、1992年にモーツァルトの「魔笛」の指揮を成功に導いている。

関西学院グリークラブをはじめとして、多くの合唱団の指導にあたり特に黒人霊歌の解釈には定評がある。近年、合唱団の中でも、現代曲を積極的にとりあげ、合唱の発展に貢献している。
故森正、今村征男の各氏に師事。現在、国立オペラ研修所講師、二期会合唱団音楽監督、神戸市混声合唱団常任指揮者、第二国立劇場開設準備室合唱部会委員。

今回、定期的指揮をと依頼されたとき、まず、学生諸君は曲目を何にしたいのだろうと考えました。前回、福永の陽ちゃんが未だお元気だった頃、同志社の定期的指揮をした事があるのですが、その時は福永さんに多分アカペラで、多田さんの組曲を指揮して欲しいと依頼された記憶があります。現在の同志社グリーとして考える曲目が何かは、学生諸君の意気込みがどうなのかを知ることもなるのです。
学生諸君も色々考え、私と何回かやり取りがあつて、紆余曲折の末、高嶋さんの「青いメッセージ」に決まりました。この曲は1984年、今は亡き山田一雄先生の指揮、アンリエット・ピュイグ＝ロジェさんの鮮烈なピアノで早稲田グリーが熱く演奏したことを思い出します。
決して易くないこの曲に決まったとき、現在の同志社グリーのキラキラする音でこの組曲を指揮する楽しさで私は嬉しくなりました。それに私と相性のいい若手ナンバーワンのピアニスト藤田雅君と一緒に演奏できる。きっと初演と又違って、あの艶と輝きのある現役学生諸君の声と、藤田君の豊かな音楽性で、今の同志社グリーしか出来ない良い演奏を彼らは彼らにやってくれるに違い無いと思っています。目下、若い彼らのエネルギーの進りをどう纏めようかと、私は密かに作戦を練っているところです。
私が関学グリーの出なので、今回同志社の定期を指揮することについて、いろいろ物議を醸し出しているようですが、私は全く考えもしないことでした。他の人に言われて始めて気が付いた次第です。
私は「事は音楽、そんなご心配はご無用」と申し上げたいのです。
音楽には国境は無いと言うじやありませんか。どんな組み合わせはいけないと言うことは無いはずで。学生諸君も藤田君も私も今はただ一緒にあって、ひたすら良い音楽を創る事にのみ全力を注ぎ込んでいるところです。
そして私はこの組み合わせで音楽する幸せを満喫しています。

藤田 雅

ピアニ



4才より音楽教育を受け、13才よりフルートを、15才より作曲を学ぶ。
桐朋学園大学音楽学部にてフルートを峰岸壮一氏に師事。
1987年渡米。インディアナ大学大学院アーティスト・ディプロマ・コースにて、引き続きフルートを学ぶ。1989年、同大学ピアノ科に転科、練木繁夫氏に師事。翌1990年より、ジュリアード音楽院にてピアノをM.ウィリアムソン、J.フェルドマン、M.ギャレット各氏に師事。
これ迄に、カーネギー・リサイタル・ホール、リンカーン・センターをはじめ、ボストン、シカゴ、ワシントン、ロスアンジェルス等全米各地、ヨーロッパでは、フランス、ドイツ、オーストラリア、フィンランドで活躍、各地で絶賛を受ける。1991年には、ニューヨークの国際連合本会議場における「平和コンサート」に出演、その模様は全米に生中継された。
又、ニューヨークのラジオ局、WQXR, WNYC, WKCR, カリフォルニア州、南キャロライナ州のTV番組にも出演、好評を得る。
指揮者としても、これ迄にテキサス州フォートワース交響楽団、ジュリアード室内アンサンブル、インディアナ大学バレエ団を指揮、成功を収める。1992年より、ジュリアード音楽院の音楽科、管楽器科のスタッフ・ピアニストとなり、1993年には、第3回神戸国際フルート・コンクール公式ピアニストを務める。
1995年、サンフランシスコ歌劇場の「メローラ・オペラ・プログラム」に、オペラ・コーチ/ピアニストとして迎えられ、サンフランシスコ・シンフォニー・ホールにおける「グランド・ファイナルズ・コンサート」にて、Otto Guth Memorial 賞を授与される。
同秋、同歌劇場「ウェスタン・オペラ・シアター」全米ツアー(全40公演)の副指揮者/オペラ・コーチを務める。
1996年、帰国。リサイタルのコラボレーター(共演ピアニスト)、オペラ・コーチ、合唱ピアニスト等、幅広く活躍。その優れた音楽性を高く評価されている。

今回、同志社グリークラブと初共演させて頂く曲「青いメッセージ」その初演をされたピアニストの名前を耳にした時、僕の頭の中は、10数年前にタイムトラベルした。
-アンリエット・ピュイグ＝ロジェ-
1985年、当時僕は、桐朋学園大学音楽学部4年に在籍していたが、授業という授業は殆どさぼり、朝から晩まで練習に明け暮れる毎日を過ごしていた。(今でも、よく卒業出来たものだと思う) そんな中で、必ず出席していた授業のひとつが、ロジェ先生の「音楽理論」理論とは言っても、それは正にレッスンそのものであった。毎週誰かが指名されて、皆の前でロジェ先生のレッスンを受ける。先生は、長年の日本滞在にもかかわらず、日本語は殆どためたつたので、レッスンは常にイタリア語の音楽用語混じりのフランス語だった。そんな先生の怒鳴る様な口癖。
「Non Rallentando!!!」 若気の至りで、楽譜には書いていないのに、気を利かせたつもりでちよつとしたRubatoなどしようものなら、すかさず彼女の怒鳴り声か教室中に鳴り響いた。当時、先生は既に70才を越えていらしたと記憶する。しかし、彼女の小さな身体から出てくる音楽は、当時20代そこの僕達よりも若々しく凄まじい生命力にあふれ、何百色の音色に飾られ、信じ難い程素晴らしいものだった。それは「音楽」そのものであった。「青いメッセージ」初演時の録音を聞いた時、僕の能裡には先生のピアノを弾く姿が鮮明に甦り、そして涙が頬を流れた。
今回、僕の大好きな京都で学ぶ、素晴らしい若者たち、同志社グリークラブと初共演出来る事を、心から嬉しく、感謝したいと思う。そして今は亡きロジェ先生の想い出を胸に抱きつつ、当時の僕と同年代の同志社の方々と共に、今宵のステージに望みたいと思う。



## 本山 秀毅

指揮者

京都市立芸術大学音楽部声楽専修卒業。西ドイツ国立フランクフルト音楽大学合唱指揮科に留学。1987年同大学を卒業。帰国後はバッハを主とする宗教音楽を中心に演奏活動を続ける。1988年仙台で開催された「日本バッハアカデミー」ではヘルムート・リリンクのアシスタントをつとめる。関西では解説を伴ったカンタータの演奏会「ゲシュプレヘスコンツェルト」を定期的に開催し、教会音楽の多角的な理解を目指している。これまでに「ロ短調ミサ」「ヨハネ受難曲」「クリスマスオラトリオ」はじめ数多くのバッハの作品を演奏する。

1991年秋にはクリストファー・ホグウッドの演奏会の合唱指揮をつとめる。また各地で合唱指導法の講師としてその普及にも努めている。

指揮をヘルムート・リリンク、ヴォルフガング・シェーファー、ウーベ・グロノスタイの各氏に師事。声楽を蔵田裕行、中村和男、佐々木成子の各氏に師事。

現在、大阪音楽大学、神戸女学院大学、同志社大学神学部講師。京都バッハ合唱団主宰。

先日、合唱コンクールを聴いて驚いたことがあった。いわゆる「大型」の合唱団が激減しているのである。Bグループと呼ばれる32人以上の部門にはわずかに数団体、それも定員をわずかに上回る団体が多かった。世の中の興味の細分化が進む中で、合唱そのものが、個々の個性を生かし切れないと考える点から人口の減少は説明されるだろうし、「小型化」は気のあった者同志が好きなジャンルの合唱を気楽に楽しむほうが音楽の楽しみの本質に近いという形で理解されるだろう。

男声合唱もそんな傾向の例外ではない。そんな中で「同志社グリーンクラブ」は脈々と連なる歴史を立派に引き継いでいる。その規模や人数だけではない。特別に技術的な問題を他人に頼る訳でもなく、メンバーが皆で話し合い、支え合ってこの所帯を向上させているのを見るとき、これは大変な事だと感じる。私は学生の気質を知ることが多い仕事をしている関係上、心からそう思えるのである。「大学生」という分類を見渡すとき、「グリーンクラブ」という存在が希有のものになりつつある。長い練習時間とどちらかと言えば保守的な体質、硬派のクラブ活動が、スポーツ、文化を問わず失っていくのを見るとグリーンクラブには頑張してほしい。

すばらしい仲間と音楽に出会った彼らはいくらも意味で普通の大学生よりも幸せかもしれない。今日も厳しい練習をへて披露される音楽の数々、粗削りの部分もあるかもしれないが彼らの背後にある様々の思いとあわせて十分に堪能していただきたいと願っている。

## 長田 育忠

ピアニ



同志社大学法学部政治学科卒業。

ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、ジョルジ・ナードル、H・ビューグ＝ロジエの諸氏に師事。歌曲伴奏法をルドルフ・ヤンセン氏に師事。またオルガンをジャン・メルオー神父に師事。

主に声楽・合唱音楽等の伴奏者として演奏活動を続けるほか、宗教音楽のオルガニストとしても数多くの演奏会に出演するなど幅広く活躍。

1986年2月、ボストン交響楽団京都公演にスタッフとして参加。

1986年6月、90年1月、91年1月にリサイタルを開催。

社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員。

今年は東西四連、関西六連、そして定演と、久しぶりに一年を通してグリーンメンと接することになった。それと同時に、クラブを続けていく上での彼らの日頃の苦労も、間近で見ることが多かった。殊に四連前の5月、6月は、四年生の就職活動の時期と重なり、練習の進め方などでも、必ずしも円滑に運ばなかったこともあったように見受けられ、クラブとして難しい問題を残したようだった。

また今年は、演奏会のたびに多くの方々から、演奏についての様々なご意見をいただいた。どちらかと言えば辛口の感想が多かったようだが、それらのいずれもが、多分に激励の意味を込めてのメッセージであると思えば、たいへんありがたいことである。

これまでの演奏会のパンフレットなどで、「同志社グリーンクラブの目標は『聴衆と一体となった音楽、聴衆と感動を共にできる音楽』を作り上げること」とあるのを何度か目にしたことがある。言うまでもなくそれはとてもすばらしい目標だと思うのだが、ならば、それがどんな音楽であるのかという問いかけを、一人ひとりが日常の練習においても常に忘れてはならないであろう。その積み重ねこそが、演奏会に足を運んで下さる方々の期待に答えることにもつながると思うのだが...

私にとって、同志社グリーンクラブとのドヴォルザークの「ジプシーの歌」は、今回が3回目である。その時々でいろいろな思い出があるが、今日はまた新たな気持ちで、坂田善弘君と共に、過去のどの演奏とも違った音楽が生まれることを願っている。

## 大久保 昭男

ヴォイストレーナー



1953年、東京芸術大学声楽科卒業。矢田部勁吉氏に師事。1953年5月、NHKオーディションに合格。数多くの放送、演奏会に出演。近衛秀磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」。山田耕筰作曲、本人指揮のオペラ「黒船」(初演)ドヴォルジャーク作曲「ルサルカ」(初演)などにも出演。1959年には、ドイツ・リートおよび日本歌曲による第1回リサイタルを開く。その後、関西学院グリーン、同志社グリーン、慶應ワグネル、立教大学グリーン、明治大学グリーン法政大学アカデミー合唱団をはじめとする大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍、現在に至る。元、東京芸術大学講師。現在、昭和音楽大学短期大学部、音楽芸術主任教授。

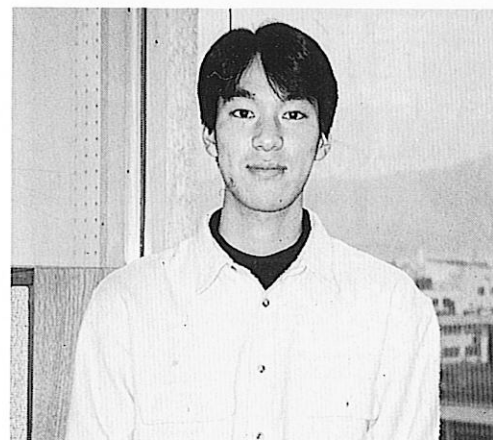
第92回定期演奏会を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

私も気がついてみますと、グリーンを教えて35年目になる様です。グリーンメンは4年間でひと区切りになりますが、私たち音楽家は、毎年常に前へ前へと進んで、後をふり返る時間も余裕もありません。今回の演奏こそは夢中で声楽(合唱)の勉強を若者であるグリーンメンと共に積み重ねる中に、次々と演奏会がやって来ます。どんな時も練習に集まって声をひとつにして合唱する情熱ある姿は、誠に素晴らしいものであります。

今回は特に北村協一氏を迎えての定期演奏で、より以上の演奏が聞けることと期待しています。グリーンメンの溢れる声と心が私の思い通りの音楽となって、ホールにひびき、輝き、皆様のお心を動かしてくれます様、祈っています。

## 坂田 善弘

学生指揮者



1974年、大阪生まれ。春日丘高校出身。幼少の頃よりピアノを学び、早くもその才能を発揮し始める。高校時代には合唱の虎の穴、音楽部に所属して学生指揮者を務めた。グリーンクラブ入部後もその抜群の経験を生かして一躍指揮者候補となり、今年1月に第65代学生指揮者に選出された。2月に行われた「卒団生のためのフェアウェルコンサート」では「ロバート・ショウ名曲集」また11月の関西六連では、ドヴォルジャークの「ジプシーの歌」を指揮して名方面より絶賛を浴びる。

スラッとした長身の体格、そしてその長い腕から繰り出される巧みなタクトセンスにより、内に秘めた音楽性と闘志とがひしひしと部員の胸に伝わってくる。また妥協を許さずあくまでも最高の演奏を追い求める丹念な練習は、部員から厚い信頼を得ている。今宵、彼は、魂から吹きこぼれてくる音楽、そして指揮者として四年間の集大成を披露してくれるであろう。



## 第65回関西学院グリークラブリサイタル

- 1997年1月19日(日) 東京：昭和女子大学人見記念講堂
- 1997年2月1日(土) 大阪：ザ・シンフォニーホール

- |                                |                                     |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| I 「MISSA SINITE PARVLOS」       | 作曲/Ettore Desderi 指揮/林 雄一郎          |
| II 男声合唱組曲「雪と花火」                | 作詩/北原白秋 作曲/多田武彦 指揮/吉岡裕記             |
| III 「Afro American Spirituals」 | 指揮/広瀬康夫                             |
| IV 「さすらう若人の歌」                  | 作詩・作曲/Gustav Mahlar 指揮/北村協一 伴奏/藤田 雅 |
| V 男声合唱組曲「月光とピエロ」               | 作詩/堀口大聖 作曲/清水 脩 指揮/北村協一             |

〈お問い合わせ〉 関西学院グリークラブホール TEL/FAX 0798-52-6471



## 神戸女学院大学コーラス部第37回定期演奏会

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| I MISSA IN FDUR       | 指揮：嶋 江奈美/オルガン：片桐聖子         |
| II 女声合唱組曲「秘密の花」       | 指揮：山本祐子/ピアノ：高上亜紀           |
| III 企画ステージ「Aladdin」より | 編曲：中村 健/バカソノ：喜多弘悦/指揮：嶋 江奈美 |
| IV 女声合唱曲集「わたしは風」      | 指揮：嶋 江奈美/ピアノ：緒方裕美子         |

1997年3月1日(土) 開場17:30 開演18:00

尼崎市総合文化センター アルカニックホール

(連絡先) 佐藤有可子 0797-71-6859

## ❖ 一同 関 胎 動 一

～より高次の存在へ～

## 同志社・関学交歓音楽会

# 1997年7月5日(土)

### いずみホール

お問い合わせ/同志社グリークラブBOX TEL 075-251-3185(呼)

関西学院グリークラブ TEL/FAX 0798-52-6471

## Naniwa Choraliers 3rd Concert

# Naniwa Choraliers'97 in TAKARAZUKA

## 1997.2.23 <sun>

### 14:30 Open/15:00 Start

### 宝塚：ベガ・ホール

(阪急/宝塚線 清荒神駅より徒歩1分)

● 入場料 ¥1,000  
(自由席)

男声合唱組曲

- 月光とピエロ
- Sea Chanty より
- 企画ステージほか

指揮：伊東 恵司  
オルガン：長田 育忠

お問い合わせ

木寺 洋介 06-412-8864  
矢野 元一 06-941-1639

## 大和銀行合唱団 創立45周年 記念演奏会

1997年7月21日

大阪・フェスティバルホール

- |   |
|---|
| I 青島 広志：「マザーグースの歌」(谷川俊太郎 訳詩)                    |
| II Franz Lehár：オペレッタ「THE MERRY WIDOW」(源田俊一郎 編曲) |
| III 鈴木 輝昭：混声合唱とピアノのための「もうひとつのかお」(谷川俊太郎 作詩)      |
| IV John Rutter：「MAGNIFICAT」                     |

指揮/松浦 周吉 北村 協一 辻 正喜  
ソプラノ/芦原 昌子 雑賀 美可  
ピアノ/長田 育忠  
管弦楽/大阪フィルハーモニー交響楽団

〈お問い合わせ〉 ☎06(268)1631 大和銀行本店営業第三部 堀 伸夫

今日も、ちよいぐり

合宿秘話

日頃からメンバーで知られる外政サプSはチームMの顔を蹴り眼鏡を壊す荒行を為した。総会が待たれる。

### 新歓・オリエンテーション

4/1~4/7



新歓期間これは、グリーンメンが、楽しがるうーと、つらがるうーとに関わらず、年間で一番、笑顔を見せる(もしくは装う)期間である。  
 新たな生活のスタートに胸を高鳴らせる、まだ右も左も分からない新入生に、グリーンメンはこの笑顔でもって、男声合唱という新たな選択肢(これは後々、彼を至福の極致にも奈落の底へも導くことになるのだが)を提供する(あるいは強要する)のである。さらに今年は、女子大の皆さんの協力をいただいて、グリークラブは、にわかに女子大と交流のさかんな、笑顔の絶えない爽やかクラブとなる事に成功(期間限定ではあるが)したのである。おかげで有望な新人が例年にも増しこの爽やかクラブ(グリーのこと)に残ってくれ、私もとてうれしーのである。  
 (Top II いちろー♥)

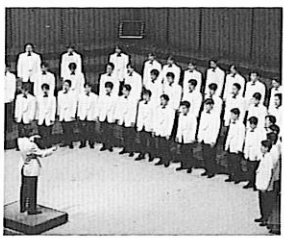
### 六連運動会

5/3



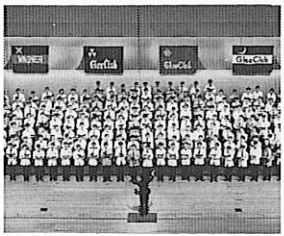
5月3日、ゴールデンウィークの真只中にもかかわらず、2000人を超える業界人が服部緑地公園に集まった。前回優勝の我ら同グリーは応援校の武庫女コーラス部と共にAm9:30には集合し朝一番で会場に乗りこんだ。競技の方はヤル気があり余ったせいか、“千代の富士脱臼”“大仁田流血”により同グリーから2台の救急車を出すハプニングがあったものの、運動不足で体の動かない上回生にかわり一回生が活躍、極道レースではTop4 N山さんの“四暗刻”も飛びだし、見事優勝。同グリーV2を飾った。  
 さてその後の打ち上げでは、流血し救急車で運ばれたBass4回 Y名さんも病院からかけつけ大暴れ。武庫女の皆さんと共に他のグリーンメンも日頃のウップンを晴らすかのごとく大暴れ、狂乱の宴となった。そう、そんな中個人の利益のためにのみ一人突き進む男がいた。M井K雄。苦節2年…。これ以上は語るまい。おめでとう、M,ちゃん。  
 (Br. III かまきりん)

### 京都府合唱祭



我が団の数少ない京都での演奏会、その中の1つがこの京都合唱祭だ。  
 そのせいもあってか、まあ、毎年のものであるが、我々の出番になると決まってお客さんは急激に押し寄せて来る。われ先にこれを見んと詰め駆けつけてくるのだ。ヘタな演奏はできない。今年はアルカデルトのアヴェ・マリアと詩編98だった。  
 私自身、昨年度は風邪でダウンしてこの京都合唱祭を見に行けず、何も知らぬまま今年のステージをしかも最前列という位置で迎えたわけだが……  
 指揮の坂田さんの手がひるがえり、演奏が始まる。会場一帯をハーモニーが包み込み、客の心を魅了する。私は思うように声が出せなかった。  
 我が同志社グリークラブのそのポテンシャルの高さを再認識させられた一日だった。  
 P.S某Fゲルの指揮者さんへ  
 合同で一人飛び出したの僕です。ごめん。  
 (Top II “K”)

### 第45回 東西四大学合唱演奏会 6/30(フェスティバルホール)



あの名演「御誦」からはや一年。今年も四連の季節がやってきました。いざ出陣と意気込む僕等の気持ちがおテントサマにも通じたのか、天気は快晴。意気揚々とフェスティバルホールに乗り込むと、〇〇田グリーの人数と声量に呆然。〇心……合唱団の完成度に又、呆然。〇学グリーのトップの頑張りにも又々呆然。そんな僕の緊張をほぐしてくれるかの様に優しい小泉先生の棒、長田先生のピアノ、これにより、同グリー家に嫁いだ、萩久保先生の“きせまな子”は、見事微笑んでくれたのでした。その「季節へのまなざし」は、小泉先生をも魅了し、「どこかで、又、再演してみたい。」と言わしめる演奏ができました。  
 四連も終わり、鴨川では、たのしいたのしい時を過ごし、打ち上げでは、例年の如く、早〇〇グリーと、同グリーのオンステージ。又、四回生の部屋では、皆がアダムのお姿。しかも僕等の偉大な某指揮者がまさかそんなお姿になるとは……。これ以上は私の立場もごさいますし、オフレコですので、さようなら!  
 《Sec. II 愛をめぐんで下さい》

### お座敷

### 通年行事



七月十七日。この日一日、京都の人口は十倍になるといふ朝、太子山の前に大勢の人が集まっている。余りの人ばかりで前がよく見えないがどうやら何か歌っているらしい。声はすれども姿は見えず。ほんとにあなたは屁の様な……  
 日本三大祭のひとつ、祇園祭。その祇園祭の名物『太子山の歌声』。実は歌っているのは同志社グリーなんです。普段演奏会でしか見られない同志社グリーですが、意外に身近なところで歌っています。祇園祭山鉦巡行もそのいい例でして、朝早くから始発もものともせず京都に馳せ参じ太子山の前で歌っております。他にも同志社大学の入学式や卒業式、結婚式、会社のオープニング・セレモニーなどで私共は歓喜の歌声を響かせております。今日聴いたこの音色が、いつでもどこでもお気に召すままに聴けるこの外部出演。皆様いかがですか。クリスマスの二人きりの夜、ソファで肩を寄せあう二人、窓の下からは甘いメロディーが……。そんなロマンチックな夜を求める貴方。またいざ打ち入りで勇ましい音楽を必要とする貴方。今すぐお電話を!  
 同志社グリークラブBOX TEL075-251-3185(呼)まで、ありとあらゆるジャンルに対応致します。

今日も、ちよいぐり

合宿秘話 トップサブバは最終日額に、“の”字が。同じくベースサブバには、“肉”の字が。一体何しとったんねん。

### 夏季演奏旅行

8/3~8/5 (群馬・安中市)



PM11:30、8/3、京都駅八条口。およそグリーの集合時間とは思えないこの時間でさえも、ひとりも遅れることなく集合した。恐るべきはオーダーの力か……  
 翌日、群馬県安中市文化会館到着AM8:00、これまた早いお着きで……。バスの中ではグリーンメンが死んだように寝ていたのであった。しかし、リハーサルも開始となると、日頃の習性かきちんと練習する彼ら。そして開演。本当はこれがデビューステージのはずの某三回生副指揮者K林K太も、多少緊張していたというのが定説であります(こんなにかいたら怒られるかしら)。  
 現地での演奏に対して多大な御尽力を頂きました方々にここでもう一度御礼申し上げたいと思います。さて来年はどこに現われましょうか…… それでは。  
 (Top III J)

### 夏合宿

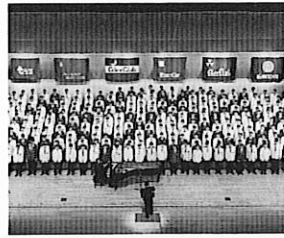
9/2~9/7 (信濃平・シャトー宮沢)



今年も夏合宿のシーズンがやって来た。場所は自然豊かな信濃平。テニスサークルのような合宿を予想していたフレッシュの期待を裏切り、朝から晩まで一日約10時間の猛練習。しかしこの極限までの練習が六連、そして定演成功の土台を作って行くのだ。しかし正直言って過酷である。しかも日を重ねる事に全体の雰囲気も重く、そして厳しくなっていくのである。そしてその雰囲気最高潮になる5日目の練習直後、突如として××××が始まるのである。フレッシュが体験する最大の苦難であるこの××××。今年は悪天候のために更に過酷になってしまったが、見事全員がクリアし、晴れて1回生となることのできたのだ。おめでとう1回生!! その後2回生の主催する演奏会では、他回生は一週間分のストレスをスリッパにこめてぶつけるのだ。今年の演奏会は無事成功に終わり、そして十分ストレスを放出したグリーンメンは、すっきりした顔で合宿所を後にしたのだ。  
 (Top II 次期実行委員長)

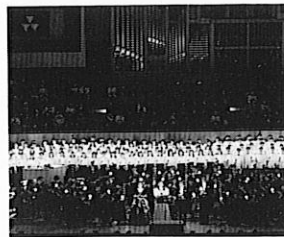
### 関西六大学合唱演奏会

11/3(フェスティバルホール)



透き通った空気が心地良いある冬の日。僕はいつものコートにくるまり大阪の街を歩いていた。ふと見覚えがある風景に気が目を上げる。ああ、フェスティバルホールだ。まだ記憶に新しい関西六連の日、僕等はここに集まった。関西六連……。目を閉じるとあの日の感動が心の中に蘇ってくる。個性あふれる関大・関大・立命・阪大・甲南・そして我が同志社の各ステージ。合同ステージのホールを包み込む大音響! 満場の拍手。一夜の饗宴。グリーをやっていてよかったといつも思う瞬間だ。そう、この日は1回生の初めての大使台での出演だった。本当にみんなよくやってくれた。オーディションでの厳しい言葉にもめげず、努力し、全力でぶつかって来てくれたからこそ、演奏会の成功と、今の君達がある。  
 今年も秋は瞬間に去り、長い冬に後を託し始めた。しかしまた巡ってきたその時、感動を我々に再び味わせてくれるのである。  
 (Sec II ひろし)

### 全同志社メサイア演奏会 12/24(京都コンサートホール)



定演も終わった12月の夜、それはグリーンメンの雄叫び(ゴメン……)を聴ける今年最後の夜の出来事であります。その歴史、実に61年!同志社の中に留まらず、京都の冬の風物詩として社内外の皆様楽しんで頂いているこの演奏会、同グリー在る限り続きましょう。管弦楽は同志社交響楽団、女声は同志社女子大学メサイア研究会(注:怪し気なのは名称のみです)と一般公募が担当。まさに同志社をあげてヘンデルの傑作オラトリオ《メサイア》に取り組んでいるのです。  
 日本ではクリスマス・シーズンに演奏されることの多い本作品は、欧米各国では季節に関係なく演奏されるそうです。今年、私達は夏の《メサイア》を経験しました。(イエール大学と共に。pp.24~25参照)そして1996年2度目の今宵、浮かれた街の喧騒を離れて心からのハレルヤを御一緒に歌いませんか?  
 (メサイア研究会 A.Fujita)

### フェアウェルコンサート (同志社大学学生会館ホール)



フェアウェルコンサートは、四回生のラストステージである。大学を卒業される先輩も、もうちょっと大学で勉強される先輩も、今日でグリーライフを終えるのである。とはいえ別れの悲しみに満ちているばかりではない。一回生から四回生のステージで、観に来て下さった観客の方々に満足して頂き、続いての一回生から三回生までのステージでは、四回生に安心してもらえるようにと、下回生が真剣に唱う。そしてお楽しみの四回生による企画ステージでは、部外者置いてけぼりの内輪ネタで盛り上がり、先輩の最後の熱唱に皆で声援を送る。だが、卒団式になると会場は神秘的な雰囲気にも包まれる。OB会会長の松村先輩から四回生に、OBとなっても、現役部員を支援する様にとの忠告を頂く。そしていよいよ卒団生の退場の時になると、蛍の光のハミングの中からすすり泣きも聞える。この時ばかりは、日頃鬼の様な先輩の目にも涙が光っている。来場の際はハンカチをお忘れなく。今年2月8日です。  
 (Sec III ひらばーOPEN)

# 同志社グリーンクラブ 高松演奏会

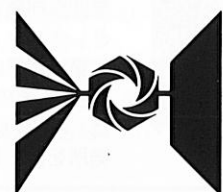
1997.8.2 香川県民ホール

# 同志社グリーンクラブ・ノートルダム清心女子大学グリーンクラブ交歓演奏会

1997.8.3 岡山市民会館

## きらめく瞬間を未来に伝えたい。

あなたのきらめくその一瞬を素敵にとらえる。  
未来に残す価値ある記念写真をお届けするために、  
いつもいっしょうけんめいのお阪フォトサービスです。



OSAKA PHOTO SERVICE  
株式会社 大阪フォトサービス

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17 TEL.(06)443-7608(代表) FAX.(06)443-4437

## 第32回 全同志社メサイア演奏会

### 1996.12.24(火) 京都コンサートホール

指揮 佐藤 功太郎 Sop. 松下悦子 Ten. 金谷良三  
Alt. 三井ツヤ子 Bas. 井原秀人

開場 17:00 開演 18:00 入場料 1,500円  
(当日座席券交換)

主催：全同志社メサイア演奏会実行委員会

前売り：同大・立命大・京大各生協、JEUGIA、  
コンサートホールPG、チケットぴあ で発売中

TaKaRa

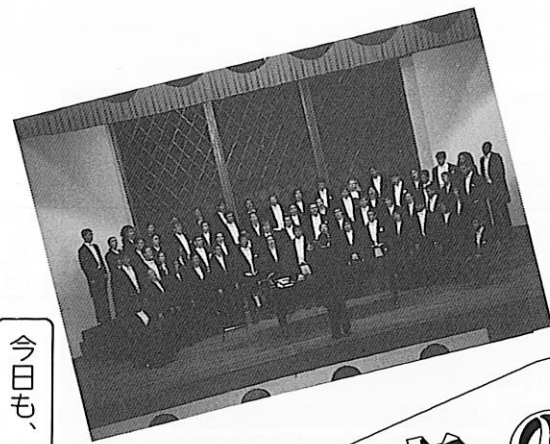


日本の慶び。

お酒は20歳を過ぎてから。  
— いい飲み方、あなたと考えたい。 —

20歳からはじまる、お酒とおつきあい。いつまでも健やかにお酒を楽しむためには、体調を考えて飲む。ハンドルを握るときは、飲まない。TaKaRaは、「いいお酒の飲み方」を皆さんと一緒に考えていきたいです。

宝酒造株式会社



# 京の空に響け

## エールグリークラブ京都コンサート

於：同志社女子大学栄光館

去る6月20日、アメリカ東部八大学でも名高いエール大学から、アジアツアーの一環として京都を訪れたエールグリークラブが、我が同志社グリークラブとジョイントコンサートを開催しました。過去にも、昭和40年に京都府会館でジョイントコンサートを行い、また昭和49年には我が団のアメリカツアーで共演しており、今回は実に22年振りの共演となります。同志社大学とエール大学のカレッジソングは、『ラインの守り』という曲の同じメロディーからできており、それが両団の交流の原点であると言えます。折悪しくも梅雨のシーズンだったため、当日は激しい雨でありましたが、それにもかかわらずきっちりと京都観光をしたうえに、素晴らしいハーモニーを響かせてくれた彼等のアメリカンなタフさには舌を巻いたものです。それでは、彼等と共に過した一日の思い出を少し振り返ってみましょう。



ステージリハーサルの1コマ。この時、エールのステージマネージャーが日本のステージ進行表を見て一言、「リハーサル時間が分刻みで決められているなんて、驚きですね。」日本とアメリカの時間感覚の違いにカルチャーショックを受けてしまいました。

### ステージプログラム

- I: 『エールグリークラブ愛唱歌集』
- Gaudeamus igitur (Traditional Student Song)
  - Laudate nomen Domini (Giovanni Gabrieli)
  - When David Heard (Norman Dinerstein)
  - Verleih uns Frieden gnädiglich (Feli Mendelssohn)
  - Ave Maria (Franz Biebl)
- 指揮: David H. Connell  
演奏: YALE GLEE CLUB

- II: 『日本の無伴奏男声合唱曲 ~清水脩・多田武彦作品の中から~』
- 冬野 (男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」より) 作詩: 尾崎喜八 作曲: 多田武彦
  - 或る誕生 (男声合唱組曲「雪国」より) 作詩: 堀口大学 作曲: 多田武彦
  - 秋のピエロ (男声合唱組曲「月光と虹」より) 作詩: 堀口大学 作曲: 清水 脩
  - 雨 (男声合唱組曲「雨」より) 作詩: 八木重吉 作曲: 多田武彦
  - 梅雨の晴れ間 (男声合唱組曲「柳河原」より) 作詩: 北原白秋 作曲: 多田武彦
- 指揮: 小林香太 (学生副指揮者)  
演奏: 同志社グリークラブ

- III: 『エールグリークラブ・Spirituals』
- Ev'ry Time I Feel the Spirit
  - Sometimes I feel Like a Motherless Child
  - Didn't My Lord Deliver Daniel?
  - Reincarnations 1. Mary Hynes 3. The Coolin
  - 'Neath the Elms
  - Medley of Football Songs
- 指揮: David H. Connell  
演奏: YALE GLEE CLUB

- IV: 『日米合同ステージ~メサイア~』
- かくて主の栄光はあらわれ ~And the glory of the Lord~
  - いと高きところには神に栄光あれ ~Glory to God~
  - ハレルヤ、全能の主なる神は統べたまえり ~Hallelujah~
  - 屠られたまい ~Worthy is the lamb~
- 指揮: David H. Connell/小林香太  
演奏: YALE GLEE CLUB/同志社別ヶ丘  
賛助出演: 同志社女子大学メサイア研究会 神戸女学院大学コーラス部



エールグリークラブのステージにて。まず第一に目をひくのは、彼等のステージオーダーでしょう。彼等はパート毎に順番に並ぶのではなく、男女入り乱れてステージに立つのです。そのリラックスした様子からは想像もできない、力強くかつ高らかなハーモニーに我等グリーメン一同感動しっぱなしでした(特に黒人霊歌における女性のソロは官能的ですらありました)。そんな彼等と共に歌われたメサイアはこれまでとは異なる魅力のある演奏ができたと思います。



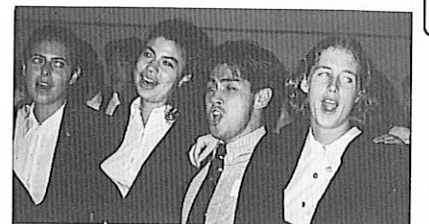
両団の演奏会マネージャー。演奏会が無事終了しホッと一息。エールグリークラブのTexas氏はその人柄の良さもあって、この後も我等グリーメンのひっぱりだこでしたが、当然大多数のグリーメンは滅多に話す機会のない金髪美人にハイエナのように群がっていたのでした。その成果は推して知るべし。



今回の演奏会で指揮者を務めた、エールグリークラブのDavid H. Connell氏と同志社グリークラブの小林香太君。メサイアはこの2人が交代で指揮をしたが、レセプションの場で、改めて2人の健闘を讃え合った。ところで香太君、君の英語は通じましたか？



証拠写真



同じメロディーである両校のカレッジソングを肩を組んで共に歌うエールグリークラブの女性達と我が絶倫幹事長。その時、歌が言葉の壁を超えるコミュニケーション手段になり得たということを実感として知った赤点グリーメンも多いことでしょう。



レセプションの場で、エールグリークラブ、再びハーモニーを響かせる。彼らは力強い歌声と明るい表情で、最後まで楽しませてくれました。彼らの歌に込められていた“音楽”の精神は、たとえ言葉が通じなくても、確かに感じとることができました。彼らの歌声が静かに止むと、歓声が一斉にあがったのでした。

### 賛助出演の方からのメッセージ

いつ晴れるともしれぬ梅雨空をうらめしく見上げながら、同志社のシンボルである栄光館でのエールグリークラブとジョイントコンサートに参加させて頂きました。

この日皆様と唱わせて頂いた曲はヘンデル作曲の《メサイア》というメシア(救世主)であるキリストの生誕から受難、復活に至るまでの生涯を綴った全53曲から抜粋したものでした。技術的に難しい曲である為、練習の時は「成功させよう!」との思いのあまりついハードになり「音が苦」になりがちでしたが(?)演奏会当日は文字通り「音楽」、みんなが笑顔で唱っていたのがとても印象的でした。私は2階にあるオルガンの横で皆様とはまた違った角度からこの演奏会に臨みました。一人一人の唇から生まれ出たさざ波が少しずつ共鳴しあって、やがて大きなうねりとなり栄光館をすみずみまで満たしていたのを今でも鮮やかに思い出します。

同志社女子大学メサイア研究会

今回同志社グリークラブ、同志社女子大学メサイア研究会を通じてエール大学の方と好きな「歌」でもって交流できたことは、私達にとってかけがえのない素晴らしい思い出となり得ました。エール大学の単独ステージを聴くこと、そして同じステージをもつことにより、ほんの僅かな時間ではありましたが、考え方や価値観の違いを感じ、文化交流も出来たと思っております。エール大学のとてもアットホームで、なおかつ舞台と客席の心地よい一体感をもったステージを見ていると、好きだから楽しいから歌うんだという気持ちが伝わってきました。合同ステージではエール大学の方に挟まれて歌ったのですが、とてもリラックスして歌っているという事がますます感じられたように思います。また同時に改めて歌うことの楽しさというものを教わりました。

普段では考えられないような素晴らしい機会を与えて下さり、大変感謝しております。本当にどうもありがとうございました。

神戸女学院大学コーラス部

このときに「**燦**」として輝く。

時代に媚びず 時代を超える  
マルチメディア社会を迎えた今も果敢にチャレンジ  
ますます輝きを放つ双林です



アイデアと技術で情報産業を担う

**株式会社 双林印刷社**

本社・工場 〒601 京都市南区新千本通十条下ル  
Tel. (075) 681-7748 Fax. (075) 672-5602  
大阪営業所 〒530 大阪市北区西天満3丁目1番5号英和ビル902  
Tel. (06) 311-0489 Fax. (06) 311-0493

**合宿・ゼミ合宿・スキー・宿泊コンパ**

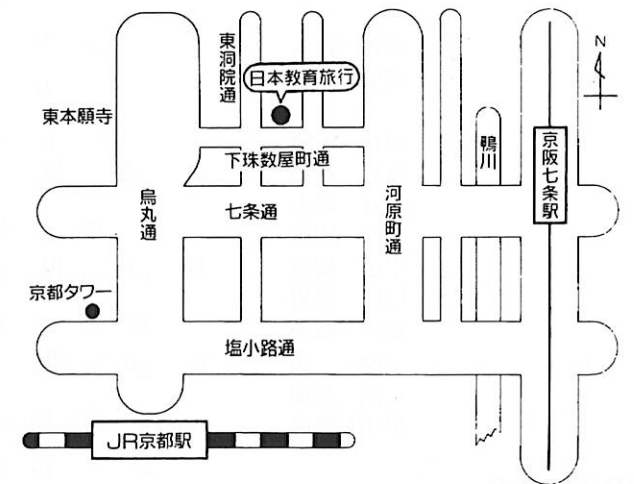
お気軽にご相談ください。

フリーダイヤル 0120・0405・66

**NET 日本教育旅行**

〒600 京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入  
TEL. (075) 361-5305 FAX. (075) 371-7739  
●営業時間 10:00~18:00(土曜/10:00~16:00日・祝休日)  
運輸大臣登録旅行業代理店業第6220号  
京都府知事登録国内旅行業  
一般旅行業務取扱主任者 和澤 滋義

**日本旅行** 海外旅行代理店



Video, Recording, Design

私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で  
今宵のコンサートのCD制作を担当しております。

**Sound Studio Oka**

CD制作  
1枚から!

その他、録音、ビデオ撮影 及び  
カセットテープ・ビデオテープ・  
パンフレット・ポスター製作も承ります。

株式会社 サウンドスタジオOKA  
〒606 京都市左京区下鴨半木町70番地  
TEL (075) 712-5710 FAX (075) 721-0835

出力サービス  
**OKA GRAPHIC CENTER**  
ホームページアドレス:  
<http://www.bekkoame.or.jp/~okagc/>

**TAMA - HIME - DEN**

ちょっと気取ったパーティー・プラン  
お一人様¥6,500 (飲み放題) より



**梅田玉姫殿**

〒530 大阪市北区鶴野町4-16  
TEL (06) 374-3333代

同志社グリークラブ

第92回同志社グリークラブ定期演奏会OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

名誉顧問/遠藤彰 顧問/澁谷昭彦 ヴォイストレーナー/大久保昭男

同志社グリークラブ

幹事 長安池尚志 副幹事 長米山博哲 内政 矢野貴久 外政 岡田平八郎 田中幹人 長森太郎 水野武司 角谷武志 吉岡康典 岸田輝哉 辰巳尋思 藤田威夫 立原太 三由直樹 早川繁彦

會計 川口裕之 藤井啓介 松田心 都築洋 浅川治之 嶋田和晃 中山聡 山崎仁 加藤一郎 御堂甚昌 黒瀬誠 山口隆介 池永洋介 豊田明朗 村上隆明

文化団体連盟運営委員 中村慎吾 全同志社メサイア実行委員 森田大介 河合真人 早川繁彦 社本吉康 坂田善弘 小林香太 中山聡 松井和雄 田栗雅晴 三由直樹 本多慎司 西田啓 山名直明 入江隆生

Table listing names and graduation years of members who supported the concert. Columns include names and years like '大正15年卒', '昭和5年卒', etc.

TOP TENER

池永洋介(文4) 濟々譽 長森太郎(文4) 川西緑台 中山聡(経4) 曉 矢野貴久(経4) 春日丘 小林香太(経3) 北大和 黒瀬誠(商3) 近大附属 松井和雄(経3) 明德義塾

山崎仁(文3) 大阪貿易学院 早川繁彦(法2) 旭丘 伊賀上友紀(文2) 松山東 加藤一郎(経2) 豊橋東 岸田輝哉(工2) 報徳学園 古賀竹虎(文2) 検定 山口隆介(文2) 滝川

堀江元治(法1) 同志社香里 松本祐輔(商1) 青雲 西川佳安(法1) 守山 西岡淳(法1) 築紫 阪本大輔(商1) 清教 山本浩之(法1) 生野 山下次郎(文1) 刈谷北

SECOND TENER

川口裕之(工4) 清風 立原太(文4) 近江兄弟社 田栗雅晴(工4) 金蘭千里 角谷武志(法3) 摂陵 三由直樹(商3) 三国丘 岡田平八郎(文3) 雲雀丘学園 坂本和之(経3) 高松西

浅川治之(法2) 膳所 藤田威夫(文2) 関東学院 池淵正樹(法2) 米子東 社本吉康(法2) 旭野 辰巳尋思(文2) 北須磨 加藤明(商1) 山形南 小松原浩司(工1) 岡山大安寺

香原勝幸(法1) 上宮 工藤一洋(工1) 三島 松井義忠(工1) 高松大手前 野中耕(経1) 四日市南 竹之内達也(法1) 築紫丘

BARITONE

本多慎司(商4) 京都府立向陽 御堂甚昌(工4) 北野 水野武司(法4) 瑞陵 坂田善弘(商4) 春日丘 関安記臣(法4) 江南 安池尚志(経4) 静岡東

松田心(文3) 野々市明倫 西田啓(商3) 春日丘 都築洋(商3) 春日丘 米山博哲(神3) 伊那北 村上隆明(法2) 比叡山 森雅章(法2) 大垣北

嶋田和晃(工2) 藤島 岩本周平(商1) 帝塚山 五十嵐嘉紀(商1) 開知 大科優貴(法1) 北大和 大久保学(法1) 北大和 内田和孝(経1) 岡山操山

BASS

藤井啓介(商4) 岡山 広瀬圭一(工4) 名古屋市立向陽 中谷統久(法4) 近大和歌山 田中幹人(商4) 宇和島東 山元進(文4) 同志社 山名直明(神4) 和歌山県立桐陰

入江隆生(経3) 三島 河合真人(法3) 豊橋南 森田大介(商3) 畝傍 豊田明朗(文3) 真岡 吉岡康典(経3) 近大附属 石井隆昭(経2) 崇徳

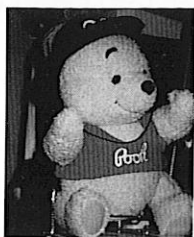
中村慎吾(法2) 岐山 矢倉聡明(経2) 明星 板倉伸久(商1) 八鹿 菅有正(文1) 札幌北 弓山竜也(文1) 丹原

※ 尚、印刷のメ切の関係上、掲載できなかった先輩方もおられます。



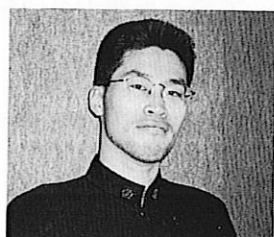
Special Thanks  
 ~編集後記~

角谷 武志



まだまだ未熟者の私がなんとかやっけていけるのも頼もしい仲間達、そして皆様のおかげです。これからもご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

吉岡 康典



あの日、何の考えもなくあるクラブに入部し、外政という役職に就き、ひねくれた我が身を真っすぐにしてくれる人々に出会った。自分の選んだ道の中に、これほどの宝が眠っていたなんて想像し得たであろうか...  
 全ての皆様に「有難う」と言いたい。

坂本 和之



編集の仕事を担当すると、いかに漢字を間違っているかおもしろい。そしてまた、いかに多くの人がこの時の為に尽力してくださっているのか、ということも痛感する。願わくば、全ての人に幸せが訪れることを。

本日はお忙しい中を御来場下さいまして、誠にありがとうございます。最後になりますが、このパンフレット制作にあたりまして、快く原稿を御執筆下さいました諸先生方、広告並びに、協賛を頂きました皆様、双林印刷の迫様、その他この日のために御尽力下さいました全ての方々、そして何より本日御来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

1996年師走 同志社グリークラブ一同



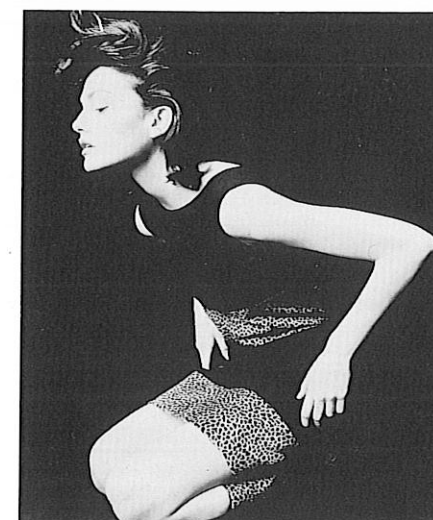
1997年2月8日(土) 開演 17:30

第92回 卒園生のための  
 フェアウェル ヨンサート

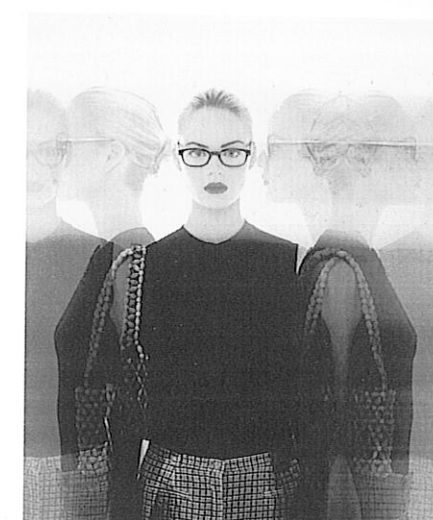
○同志社大学学生会館ホール  
 地下鉄今出川駅下車



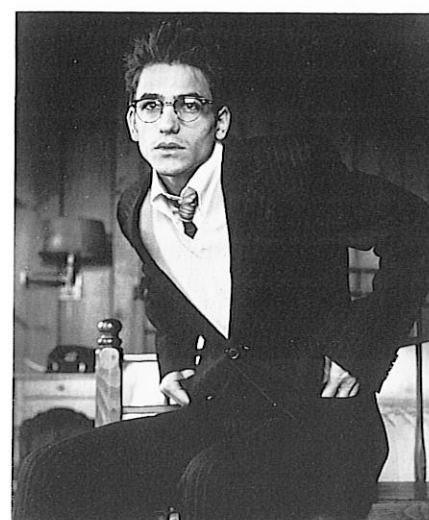
DOLCE & GABBANA



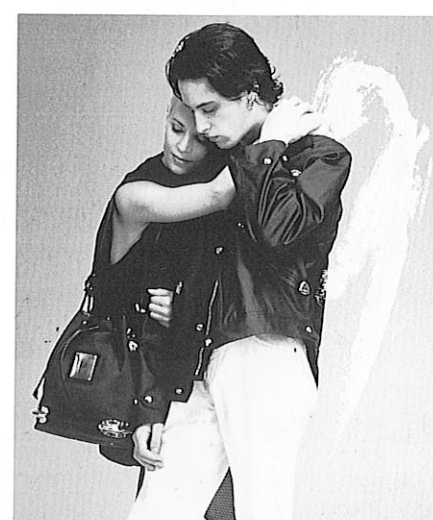
GENNY



D&G  
 DOLCE & GABBANA



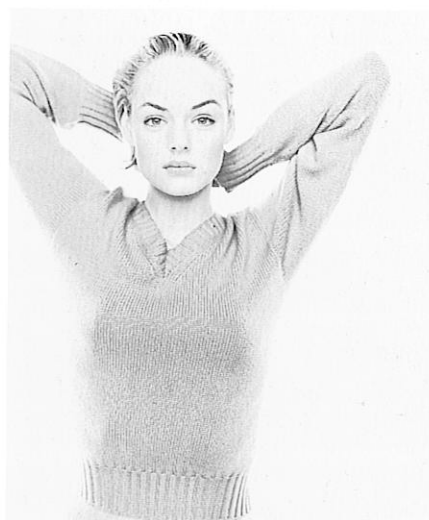
DOLCE & GABBANA



PIERO GUIDI



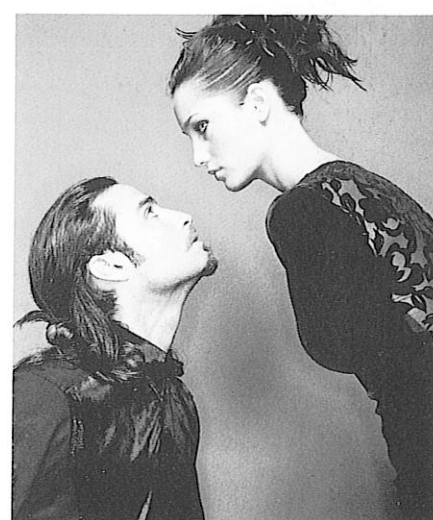
D&G  
 DOLCE & GABBANA



malo



三崎商事グループ



byter

ジェニージャパン株式会社 ビプロスジャパン株式会社 三崎商事株式会社

代表取締役社長 三崎 政二